

法華問答略述

特36

789

256

152

020141-000-8

特36-789

法華問答略述

吉谷 覺寿/著

M42.8

ABH-0355



講師吉谷覺壽撰

# 法華問答略述

京都書林 西村護法館發行

特36  
789

## 法華問答略述

講師 一乘院覺壽撰

明治 8 23

抑此法華問答ハ撰號ヲ載セストイヘトモ鑒古錄ニ據レハ曆應元戊寅年存師四十九歲願空ノ所望ニツヒテ報恩記法華問答至道鈔選擇

集註解鈔等ヲ製述シタマヘリトアリ爾レハ存覺上人ノ眞撰ナルコ

ト明カナリ其所明ノ法門ハ日蓮宗ノ妨難ヲ摧破シ一流ノ正義ヲ顯

揚シ眞實出世ノ本懷ハ念佛ノ一法ニアリ畢竟成佛ノ利益ハ弘願眞

宗ニアルコトヲ示シタマヘリ爾レハ破邪顯正ニ志アラシキ輩之ヲ研

究セスンハアルヘカラス

今將釋此問答略開四門 一者興由 二者大意 三者釋題 四者

本文 一者興由トハ此中通別二義アリ 初二通ノ興由トハ 三經

講師吉谷覺壽撰

# 法華問答略述

京都書林 西村護法館發行

特36  
789

## 法華問答略述

講師 一乘院覺壽撰

明治 8 23

抑此法華問答ハ撰號ヲ載セストイヘトモ鑒古錄ニ據レハ曆應元戊

寅年存師四十九歳願死ノ所望ニツヒテ報恩記法華問答至道鈔撰撰

集註解鈔等ヲ製造シタマヘリトアリ爾レハ存覺上人ノ眞撰ナルコ

明カナリ其所明ノ法門ハ日蓮宗ノ妨難ヲ摧破シ一流ノ正義ヲ顯

揚シ眞實出世ノ本懷ハ念佛ノ一法ニアリ畢竟成佛ノ利益ハ弘願眞

宗ニアルコトヲ示シタマヘリ爾レハ破邪顯正ニ志アラシキ輩之ヲ研

究セスンハアルヘカラス

今將釋此問答略開四門 一者興由 二者大意 三者釋題 四者

本文 一者興由トハ此中通別二義アリ 初二通ノ興由トハ 三經

文類略述ノ如シ 次ニ別ノ興由トハ此法華問答ハ決智鈔ト同シク  
日徒ノ妨難ヲ摧破シ本宗ノ法義ヲ顯揚センカ爲ニ製作シタマヘリ  
此趣キハ決智鈔略述興由ノ下ニ一期記及ヒ鑒古錄ヲ引テ辯シ置ケ  
リ故ニ今ハ之ヲ略ス約マルトコロ決智鈔ト此法華問答ハ對照スヘ  
キ書ニテ決智鈔ハ備後國ニ在リテ日徒ノ妨難ヲ摧伏シタマヒシ法  
門ノ體勢ヲ明シ此法華問答ハ當時ノ問答對決ノ現況ヲ示シタマヘ  
ルモノト見ヘタリ

二者大意トハ此書一部始終ニ明ストコロノ所詮ノ義理ヲ該括スレ  
ハ法華ニ對シテ念佛ノ勝レタルコトヲ明スヲ以テ大意トス此義具  
サニハ本文ノ所明ニ就テ知ルヘシ今其大要ヲ辯セハ此書一部ノ所  
明細目ノ問答ハ重々アリトイヘトモ大科總別五段トナル初ノ一問  
答ハ總明ニシテ爾前ノ諸教ハ方便ニシテ無益ナルヘシノ難ト西方

淨土ハ一乘ニ非サルヘシノ難ト念佛ハ無間ノ業ナルヘシノ難ト總  
シテ三難ヲ通釋シタマフ次ノ四問答ハ別明ニシテ第一問答ヨリ開  
出シタマフ其四問答ノ中本左十六第一問答ハ爾前方便ノ難ト己身彌  
陀ノ難ト念佛無間ノ難ト三難アリトイヘトモ正シク念佛無間ノ難  
ヲ先キトシテ廣ク之ヲ通釋シ兼テ餘ノ二難ヲモ會通シタマヘリ次  
ニ末右初第二問答ハ重テ善導黑谷ノ兩師謗法ナルヘシノ難ヲ通釋  
シ次ニ末右五第三問答ハ觀經ト法華ト同時ニ非サルヘシノ難ヲ通釋  
シ次ニ末右十淨土教ハ出世本懷ニ非サルヘシノ難ヲ通釋シタマヘ  
リ是クノ如ク重々ノ問答アリトイヘトモ約マルトコロ念佛無間ノ  
難ヲ摧破シテ彌陀ノ名號ニハ無上大利ノ功德アリ獨留此經ノ誠說  
アリト本左六以下法華ノ藥王品ノ文ヲ始トシテ汎ク經論釋ニ亘リ十  
九文ヲ引キタマヘリ其餘爾前無益ノ難ヲ會シ兩師謗法ノ難ヲ通シ

二經同時ノ難ヲ釋シ出世本懷ノ難ヲ破スルカ如キハ歸スルトユロ念佛ノ勝益ヲ成センカ爲ナリ爾レハ此書一部ノ大意ハ法華ニ對シテ念佛ノ勝レタルコトヲ明スニアリト云ユトヲ得テ知ルヘキモノナリ

法華問答上 三者釋題トハ法華ト云ハモト經名ニテ法華經ニ依リテ開宗スルカ故ニ法華宗ト名ク此宗ハモト天台ト同シク法華經ヲ以テ所依トシテ宗義ヲ建立ストイヘトモ所弘ノ法體ニ至リテハ大ニ天台ト異ナルトコロアリ故ニ彼レヲ天台法華宗ト名クルニ簡ンテ此レヲ日蓮法華宗ト稱シ略シテハ日蓮宗ト號ス其法華宗ト念佛宗ト問答スル趣キヲ記シタル書ナルカ故ニ法華問答ト題スルナリ此書ノ所明存師ノ自問自答ナレトモ法華宗ノ問難ヲ念佛宗ヨリ答辯スル相ニ就テ示シタマヘリ 問答トハ往復研覈スルコトナリ錄外

御書十<sup>四</sup>法華淨土問答鈔アリ彼レニ對シテ此題號ヲ置キタマフト見ユル此四字ノ題號六合釋ノ作法ニ約セハ法華之問答ノ依主釋ナルコト知ルヘシ 上トハ上下二卷アルカ故ナリ

天台一家ノ宗義ノホカニマタ近代法華等ヲ信スルトモカラアリミツカラ稱シテ法華宗ト號ス 四者本文ニ 第一總問答ニ 初問三 初標問者 天台一家ノ宗義トハ天台法華宗ナリ 近代法華等ヲ信スルトモカラトハ日蓮法華宗ナリ此日蓮ノ開宗ハ人王九十代後深草天皇建長五年四月二十八日ナリ吾祖八十一歳ノ時ニ當ル存師出世ノ正應三年マテ三十八年ヲ經過セリ故ニ近代ト云ナリ カノ義ニイハク法華以前ノ諸教ニ得益アルコトナシ爾前ノ教ハ方便ノ說ナルカユヘニ一切衆生ノ開悟悟入カキリテ法華ニアリ 一二舉<sup>二</sup>所難三 初爾前無益難二 初立義 カノ義トハ日蓮所立ノ義ナリ

法華以前ノ諸教ニ得益アルコトナシ等トハ法華以前ノ諸教ハスヘテ方便説ナレハ成佛得道ノ義ナシト云コトナリ 爾前トハソレヨリ前ト云コトニテ法華以前ノ説ナリ 開示悟入トハ法華方便品科註一下<sup>ハ</sup>ニ出ル決智鈔末<sup>ハ</sup>ニ引ケリ彼コニテ辯シタルカ如シカルカユヘニ法華第一<sup>品</sup>方便ニイハク如我昔所願今者已滿足化一切衆生皆令入佛道トイヘリ法華以前ノ諸經ニカツテコノ文ナシ 二引文ニ 初正引ニ 初法華經 コレハ科註一下<sup>ハ</sup>勸信ノ偈ナリ昔トハ爾前ヲ指ス所願トハ總シテハ一切衆生別シテハ二乗ヲシテ作佛令ムルコトナリ此意ハ我此土ニ出現シテ始メヨリ法華ヲ説キテ衆生ヲ利益セント思ヒシニ機縁熟セサリシヲ以テ説クコト能ハス然ルニ四十餘年ノ調熟ニヨリ一乘法ヲ説クコトヲ得タリ我昔ノ願ヒ満足シテ衆生ヲシテ佛道ニ入ラシメタルハ實ニ喜ヒナリトノタマフナリ

マダ無量義經ニイハク四十餘年イマダ眞實ヲアラハサストイヘリ 二無量義經 <sup>ハ</sup>ニノ文ナリ此經ニハ未顯眞實トアレハ法華以前ハ方便ナルコト明カナリ既ニ方便ナレハ權假ニシテ眞實ノ得道ナキコト勿論ナリ

此二經ノ文ヲミルニ法華以前ノ四十餘年ノ説得益アルヘカラス 二結成 上ニ引キタル二經ノ文ヲ以テ爾前方便無得道ノ義ヲ結成セリシカルニ觀經等ノ爾前ノ教ニヨリテ宗ヲタテ、大乘ト號シテ念佛往生ヲス、ムハコノ義ハナハタ不可ナリ 一觀經非一乘説難ニ 初正難 此難ハ爾前ノ教ニ攝スル權方便ノ觀經等ニ依リテ宗ヲ立テ大乘教ト號シテ念佛往生ヲ勸ムルハ不可ナリト難スルナリ其趣キハ次ニ出ル是ハ錄外六<sup>九</sup>以下小乘大乘分別鈔アリテ彌陀ノ念佛

ヲ小乗トシテ唯法華ノミ一乗ナレハ大乘ナリト定メテアリ觀經ヲ  
爾前ノ教ト云ハ天台ノ五時ノ判教ノ中方等部ニ攝スルカ故ナリ  
大乘トイフハ三乗ノ異ナキヲ一乗トモナツケ大乘トモナツクルナリ  
方便品ニイハク十方佛土ノナカニハタ。一乗ノ法ノミアリテ二ツモ  
ナクマタ三ツモナシ佛ノ方便ノ説ヲハノソクトイヘリ 二別難二  
初明大乘義 是ハ大乘即一乗ノ義ヲ以テ難ス即十三乘差別ノナ  
キコトナリ其證文ニ方便品ノ文ヲ引ケリ科註一下ニ十ノ文ナリ十  
方佛土中一乘法ノミヲ眞實トシ二乘三乘ハ佛ノ方便説ナリト説ク  
文ナリ

シカルニ觀經ノ説相ヲミルニ中三品ノ機カノ土ニ生シテ四諦ノ法ヲ  
キ。テ小果ヲ證スルユヘニシリヌカノ土ハスナハナ方便ノ土ナリナ  
ンソ大乘トイハン 二舉觀經説相 ヲレハ觀經ハ一乗教ニ非サル

コトヲ明ス爲ニ引ク所ニテ中三品ノ機ニ彼土ニ生レテ四諦ノ法ヲ  
聞キ小乗ノ果ヲ證スルカ故ナリ

シカノミナラス法華ノ文ヲモテ淨土ノ宗義ヲ校スルニ念佛ハコレ無  
間ノ業ナルヘシトイフ 三念佛無間難 是ハ決智鈔ニモ出ルトコロ  
ニテ日蓮諸宗ヲ折伏スルニ四種ノ格言トスル隨一ナリサテ此念佛  
ハ無間ノ業ナリト云コトハ錄内三十四紙十當世念佛者無間地獄事ト  
云一章アリ錄外十二念佛無間地獄抄アリ之ニ付キ二意アリ一ニ能  
修ノ人ニ約ス此時ハ念佛無間ト云ハ念佛行者ハ法華ヲ誹謗スルヲ  
以テ謗法罪ニ因リテ無間ニ墮スルト云意ナリ此義法華科註二上八四  
若人不信法謗此經ノ文ニテ此書上ニ十ニ引ケリ當段ノ難問ニ法  
華ノ文トハ此經文ヲ指スト見ユルニ二所修ノ法ニ約ス此時ハ直ニ  
念佛ヲ無間ノ業トス錄外十九紙十念佛無間地獄抄アリ錄内二十紙十彌

陀念佛ハ無間地獄ノ業ナリ乃彌陀念佛ノ小善ヲモテ法華經ノ大善ヲ失也小善ノ念佛ハ大惡ノ五逆ニモ過タリトアリ此等ハ念佛ノ法ヲ無間ノ業因トスル意ト見ヘタリ此二意ノ中今ノ難ハ前義ト見ヘタリ

カクノコトキノ謗法邪見ノ惡義イカンカコレヲ會釋スヘキヤ 三  
問會釋 上來爾前無得道及ヒ觀經ノ說ハ非一乘并ニ念佛無間ノ難ハ如何カ之ヲ會通スヘキヤト自宗ノ德ヨリ會釋ノ方法ヲ尋問セシコトナリ

答コノ義文ニソムキ理ニソムク 二答二 初破爾前無益難二 初總標 是ハ問ノ文三段ト分ル、中第一ノ爾前無益ノ難ヲ返難スルニ違文違理ノ二失アルコトヲ明シテ破シタマフ總標ノ文ナリ  
マツ理ニソムクトイフハ佛ハ機ニシタカヒテ法ヲトクコト不同ナリ

カルカユヘニ半滿ノ教異ニ二藏ノ宗別ニ衆生ノ性欲不同ナルカユヘニ執法ヲノミ異ナリ此義ヲモテノユヘニ如來アルヒハ人天二乘ノ法ヲトキアルヒハ菩薩涅槃ノ因ヲトク或ハ漸アルヒハ頓大小權實宜ニシタカヒテコレヲトクコト不同ナリシカリトイヘトモ緣ニシタカフモノミナ解脱ヲカウフルモシナンナカ所立ノコトク法華以前ノ諸教ニ得益ナシトイハ、四十餘年ノ說教ミナ虛說ナリ 二別明二 初明違理 是ハ爾前無得道ノ義ハ道理ニ背ケハ其理成セスト難破シタマフ凡ソ佛ハ衆生ノ機ニ隨フテ法ヲ授ケタマフ機緣千差ナルカ故ニ教法モ亦千差ナリ 半滿トハ小乘ト大乘ノ異名ナルコト常ノ如シ 二藏トハ聲聞藏菩薩藏ニテコレ亦小乘ト大乘ナリ 教ト宗トハ影響互顯ナリ 性欲トハ根性樂欲ナリ執法トハ教法ヲ執持スルコトナリ 此義ヲモテノユヘニ如來アルヒハ人天二乘ノ法ヲ



トキ等トハ此書上<sup>五</sup>及<sup>六</sup>ニ引クトコロノ立義分ト般舟讚ノ  
文ニ依リ衆生ノ機縁ニ隨フテ修行スレハ其益アルコトヲ示シタマ  
フモシナンナカ所立ノコトク等トハ錄内<sup>二十三</sup>諸經ハ無得道  
墮地獄ノ根源法華獨リ成佛ノ法也ト同<sup>三十七</sup>法華前說ノ諸經  
ハ皆是妄語ナリトアリ然ルニ佛語ニ無利益及ヒ妄語アルヘカラス  
彼ノ天雨及ヒ乞食ヲ問ヒタマフスラ隨分ノ益アリ日蓮ノ說妄語ナ  
ルコト誰カ之ヲ許サンヤ

ツキニ文ニソムクトイフハ諸經ノ說相悉クミナ序正流通ノ三段ナリ  
モシ得益ナクハナニヲモテカ流通トセンタ、シ爾前ノ教ノナカニ於  
テ二乗ノ作佛ヲアカサス當分得益ナラヒニ菩薩ノ授記經釋分明ナリ  
一ニ違文四 初流通得益文 序正流通ノ三分ノ中流通ニハ得  
益ヲ明ステ定マリトス若シ爾前ノ經ニ得益ナクンハ流通分アルヘ

カラスト難シタマフタ、シ爾前ノ教ノナカニ等トハ當分ノ得益  
ト云ハ小乗ノ初果乃至第四果ノコトナリ 菩薩ノ授記經釋分明ナ  
リトハ梵網經天台疏上<sup>二</sup>大衆心諦信汝是當成佛我是已成佛常  
作如是信トアリ是レ菩薩ニ成佛ノ記別ヲ授クル文ナルコト明カ  
ナリ

天台ハ菩薩處々得入ト釋シ法華第二譬喻品ニイハクムカシ佛ニシタ  
カヒテカクノコトキノ法ヲキ、モロクノ菩薩ノ授記作佛ヲミタリ  
シカルニワレラ此事ニアツカラスシテハナハタ自カラ感傷ストイヘ  
リ大師コノ文ヲ釋シテ<sup>文</sup>イハクタ、コレ方等教ノナカニ大乘ノ實慧  
ヲキ、シトイマトコトナラスカルカユヘニ如是法トイフ也授記トイ  
フハタ、コレ方等ノナカ菩薩ニ記ヲアタフ二乗ハコノ事ニアツカラ  
スシテハナハタミツカラ感傷ストイヘリ如此ノ經釋爾前ノ得益ニア

ラスヤ 二爾前得益文 天台ハ菩薩處々得入ト釋シトハ立義二之二  
紙八ニ出ル此文ハ法華以前ニ入實スルノ的證ナリ 法華第二トハ科  
 註二上紙初ノ文ナリ 大師コノ文ヲ釋シテ等トハ文句五之一三ノ文  
 ナリ經文ニ如是法トアルハ大乘ノ實慧ナリト釋ス實慧トハ佛知見  
 ノコトナリ與今不異トハ法華所說ト同一ナリト云コト 方等ノナ  
 カニ菩薩ニ記ナアタフトハ恩益經及ヒ淨名經等ノ說ナリ 二乘ハ  
 コノ事ニ預ラストハ成佛ノ記別ヲ蒙ラサルコトナリ 感傷ハ悲歎  
 スルコトナリ 如是ノ經釋等トハ法華經及ヒ立義ノ文爾前ノ得益  
 アルコト明カナリト云コトナリ

大師妙ノ字ヲ釋シテイハクコノ妙トカノ妙ト妙義コトナルコトナシ  
 トイヘリコノ妙トイフハ法華ナリカノ妙トイフハ華嚴ナリ大師ノコ  
 二經ノ義マダクコレニオナシ 三妙字釋文 立義二之二紙八ノ文

ナリコノ妙トハ法華ノ妙ナリカノ妙トハ阿含ヲ除キ華嚴方等般若  
 三時ノ妙ナリ妙トハ圓實ノ法ニシテ教體ヨリ云ヘハ全ク同シ之ヲ  
 今圓昔圓圓體無殊ト云フ又教用ヨリ云ヘハ他ヲ隔ツルト隔テサル  
 ト隔會ノ差別ナキニシモ非 カノ妙ト云ハ華嚴ナリ トハ且ク其  
 初ヲ舉テ方等般若ヲ略シタマフ 二經ノ義マダクコレオナシトハ  
 上ニ法華ト華嚴ヲ舉ケタルニ依ルナリ

ヒクトコロノ無量義經ノ文ニ始終ナシルニカノ經ニイハク衆生ノ性  
 欲不同ナレハ種々ニ說法ス方便力ヲモテ四十餘年イマダ眞實ナアラ  
 ハサスコノユヘニ衆生ノ得道差別シテトク無上菩提ヲ成スルコトナ  
 エス善男子法ハ譬ヘハミツノヨクカレナアラフカコトシモシハ井モ  
 シハ池モシハ江モシハ河溪渠大海ミナユトクヨクモロクノ有  
 垢穢ナアラフ其法水トイフマダクカクノコトシ衆生ノモロクノ

煩惱ノアカチアラフ善男子水ノ性ハコレヒトツナレトモ江河池溪渠  
 大海チノく別異ナリソノ法性トイフマダくカクノコトシトイヘ  
 リステニコノユヘニ衆生ノ得道差別ナリトイフハスナハ今爾前ノ教  
 ノ得益ニアラスヤ 四無量義經文 ヒクトコロトハ此書難者ノ引  
 ク所ノ經文ニテ彼ハ此文ヲ證據トシテ爾前ノ經ハ方便ニシテ無利  
 益ナリト難セリ今之ヲ返破スルニ無量義經ノ始終ヲ見ルニ爾前ノ  
 經ハ衆生ノ根性未タ融セサルニヨリテ一切皆成佛ノ眞實ヲ顯ハサ  
 ストイヘトモ隨分ノ利益ナキニ非スト示シタマフナリ 譬ヘハミ  
 ツノヨクケカレチアラフカコトシ等トハ水ノ濕性ハ同一ナレトモ  
 其用ニ別アルハ江河井池大海等ノ別アルカ故ナリ垢穢ヲ洗フニ至  
 リテハ同一ナリト云意ナリ ステニコノユヘニ衆生ノ得道差別ナ  
 リトイフ等トハ此經文ニ衆生ノ得道差別ト云フ無利益ト云ハ豈妄

説ニ非スヤト難破シタマフナリ

次ニ念佛無間ノ業トイフ義イツレノ經イツレノ論ヲヒキテカクノコ  
 トキノ惡義ヲタツルヤモトモコレチアハレムヘシ謗法ノトカ罪業阿  
 鼻ニアリ 二破念佛無間難ニ 初總破念佛無間邪義 是ハ上ノ問  
 難ニ爾前無益難ト觀經説非一乘難ト念佛無間難ト三難アリ答ノ文  
 上來其第一難ヲ通シ已リシヲ以テ第二難ヲ通スヘキナレトモ義便  
 ニヨリテ此書上三以下ニ至リテ通釋アリ故ニ今第三難ヲ返破シ  
 タマフナリ 念佛無間ノ業トイフ義イツレノ經イツレノ論ヲヒキ  
 テカクノコトキノ惡義ヲタツルヤトハ決智鈔本ニ詮スルトコロ  
 念佛ハ地獄ノ業ナリトイハシ人ハハヤクソノ文ヲイタスヘキナリ  
 ト云ヒ同ニ念佛ノ行ハ地獄ニ墮スル業因ナリトトキタル文アラ  
 ハソレチイタサルヘシシカラスハ會通ニチヨハサルモノナリトア

ルニ同シ

凡ソ念佛往生ヲアカスコト淨土ノ三經一論ニカキラス自餘ノ諸經諸論ノナカニコレヲトクコト稱計スヘカラス 一廣引念佛往生證文

二 初總標 念佛往生ヲ明スコトハ正依ノ經論及ヒ傍依ノ經論釋

ニ明證アリト十九文ヲ引キタマフ今其總標ノ文ナリ

法華七品藥王ニイハクモシ如來滅後ノノチノ五百歳ノナカニモシ女人

アリテコノ經典ヲキ、テ説ノコトク修行スレハユ、ニ於テ命終シテ

スナハチ安樂世界ニユキテ阿彌陀佛大菩薩衆ニ圍饒セラレテ住所

ハ蓮華ノナカ寶座ノウチニ生セントイヘリ 二別引十九 初法華

聖王品文 科註七三ノ文ナリ決智鈔本二ニ之ヲ引キ同五ニ法華ノ

説ハ諸行往生ノ意ニシテ觀經ニトクトコロノ三福ノナカニ讀誦大

乘ノ行ナリ而シテ定散ハ能顯ノ方便念佛ハ所顯ノ眞實ナルカ故ニ

カノ法華ノ讀誦大乘ノ行ハ觀經ニイリテツ井ニ念佛往生ニ歸スヘ

キナリ乃顯ニハ讀誦大乘ノ往生ヲトクトイヘトモ密ニハ念佛往生

ノ義ヲフクメリトアリ

觀音授記經ニイハクタ、一向ニモハラ阿彌陀佛ヲ念シテ往生ヲスル

モノノミアリテ常ニ彌陀現在シテ滅シタマハストミダテマツルトイ

ヘリ 二觀音授記經文 是ハ經四取意ノ文ナリ安樂集上三念佛ニ

始終兩益アルコトヲ明ス中終益ノ證文ニ引テアリ諸行ノ人ハ彌陀

ノ入滅ヲ見ル念佛ノ人ハ彌陀現在シテ入滅セスト見ルナリ

坐禪三昧經ニイハク極樂ノ教主彌陀尊念佛ノモロノ衆生ニ隨順

シテ毎日千遍住處ニキタリタマフ踊躍歡喜シタマフコトタトヘナシ

トイヘリ 三坐禪三昧經文 藏中西土聖賢集ノ中ニ坐禪三昧法門經

二卷アレトモ此文ナシ往生要集指摩鈔十五初記主良忠處々ニ之ヲ

引用ス定メテ出處アラント云ヘリ文ノ意ハ知リ易シ

華嚴經ニイハク亦光明ヲハナツテ見佛トナツクカノヒカリヲ覺悟シテ命終スルモノ念佛スレハカナラス佛ヲミタテマツル命終ノノケニ佛前ニ生ストイヘリ 四華嚴經文ニ 初舊經文 是ハ六十華嚴七十一ノ文ナリ念佛ニハ見佛ノ益アルコトヲ説ケリ

マダ云クチカハクハワレ命ヲハラントスルトキニソソンテユトク一切ノモロクノ障礙ヲソキテ面ニカノ佛阿彌陀ヲ見タテマツリスナハク安樂國ニ往生スルコトヲエムトイヘリ 二四十經文 是ハ普賢行願品四十ノ文ニテ普賢菩薩ノ願生西方ヲ説ケリ

十往生經ニイハクモシ衆生アリテ阿彌陀佛ヲ念シテ往生ノ願スルモノハカノ佛スナハク二十五ノ菩薩ヲツカハシテ行者ヲ擁護シテモシハ行若シハ往モシハ坐若ハ臥若ハ晝若ハ夜ノ一切ノトコロニ惡鬼

神ヲシテソノタヨリヲエシメサルナリトヘシリ 五十往生經文 是

ハ經<sup>五</sup>ノ文ナリ安樂集下<sup>二</sup>十禮讚<sup>三</sup>十等ニ引キタマヘリ

隨求陀羅尼經ニイハク淨土ノ因行ハ退轉セサレハ決定シテ上々品ニ往生シテ盧遮那佛ニ值遇 ストイヘリ 六隨求陀羅尼經文 現流ノ經ニ此文ナシ決疑鈔一<sup>四</sup>所引今ト同シ是亮汰ノ鈔下卷終ニ出テタル廻向文ナリ

尊勝陀羅尼經ニイハク毎日二十一遍コレヲ誦スレハ阿彌陀佛ノクニニ往生ストイヘリ 七尊勝陀羅尼經文 此經五譯アリ唐ノ杜行顛ノ譯本<sup>右七</sup>ノ文ナリ

起信論ニイハク若ヒトモハラ西方極樂世界ノ阿彌陀佛ヲ念シテダテマツリテ所修ノ善根ヲ回向シテカノ世界ニ生セシト願求スレハスナハク往生スルコトヲエシム 八起信論文 義記下末<sup>三</sup>十諸行往生ノ

意ナリ

金剛經ノ發願ノ文ニ云クカミハ四重ノ恩ヲ報シシモハ三途ノ苦ヲ  
 スクヒ若見聞スルコトアラシモノハユトク菩提心ヲ發シテ此一  
 報身ヲツクシテオナシク極樂國ニ生セントイヘリ 九金剛經文 此  
 發願ノ文トハ金剛般若波羅蜜經註三卷アリ其序ノ中ニ六祖慧能ノ  
 解義并ニ序ヲ舉テ次ニ發願ノ文ヲ附スソノ中ニ出ル文ナリ此發願  
 ノ文ハ道川ノ作ナリ 四重ノ恩トハ正法念經ニハ父ノ恩母ノ恩佛  
 恩師恩ヲ列テ心地觀經ニハ父母ト衆生ト國王ト三寶トノ四恩ヲ列  
 ヌ何レニテモ妨ナシ 一報身トハ一ツノ果報ノ穢身ノコトナリ  
 寶性論ニイハク此モロクノ功德ニヨリテチカハクハ命終ノトキニ  
 ナヒテ彌陀佛ノ無邊身功德ヲミタテマツルコトナウルトワレナヨヒ  
 餘ノ信者モステニカノ佛ヲ見タテマツリナハリナハ願シテ離垢眼ヲ

エテ無上菩提ヲ證セントイヘリ 十寶性論文 此論ハ堅慧菩薩ノ作  
 ニシテ一五ノ文ナリ此論ハ起信論ト同シク眞如緣起ノ法門ヲ明  
 セリ 此文ハ諸行往生ノ意ナリ 離垢眼トハ煩惱ノ垢ヲ離レタル  
 佛ノ清淨眼ナリ

攝論ニイハク所生ノ善コノ願ニヨリテコトク彌陀内得ノ淨眼ヲ  
 ミタテマツリテ正覺ヲ成セントイヘリ 十一攝論文 眞諦譯ノ天親  
 攝論十八廻向文ナリ ワレトク句義所生ノ善トハ無著ノ本論ノ  
 文義ヲ解釋スル天親釋ノ所生ノ善根ナリ 内得ノ淨眼トハ内證所  
 得ノ佛眼ノコトナリ此文亦諸行往生ノ意ナリ

十住毘婆沙論云易行道トイフハ云クタ、信佛ノ因縁ヲモテ淨土ニ生  
 セント願シテ佛ノ願力ニ乘スレハスナハナカノ清淨ノ土ニ往生スル  
 コトナエテ佛力住持シテスナハナ大乘正定ノ聚ニイル正定トイフハ

スナハナコレ阿毗跋致ナリタトヘハ水路ノ乗船ハスナハナタノシキ  
カコトシトイヘリ 十二住論文 論註上紙初ノ文ナレトモ難易二道  
ハ龍樹ノ論判ヨリ出ルヲ以テ根本ニ從ヘテ十住論ト稱シタマフ文  
ハ常ノ如シ

天台若ノイハク八萬法藏ノ妙ノ肝心一代聖教ノ結經ナリ衆生ノ出離  
ニハ要ノ法ナリ彌陀來道シテ往生スルコトヲウトイヘリ 十三天台  
釋文 堯慧ノ私集鈔八叶慧空ノ小經義要上本紙十ニハ智證大師ノ語  
トスレトモ其本ハ天台ノ言ナルヘシ 一代聖教ノ結經トハ阿彌陀  
經ノコトナルヘシ果シテ然ラハ光明大師ノ世尊說法時將了ノ釋ニ  
同スルモノナリ

妙樂ノイハク諸教ニホムルトコロオホク彌陀ニアリカルカユヘニ西  
方ヲモテシカモ一準トストイヘリ 十四妙樂釋文 止觀輔行二之一

紙四ノ文ナリ口傳鈔下紙初決智鈔本紙十等ニ出ル要文ナリ

慈雲法師ノイハク淨土ノ彌陀ヲヒトタヒ耳根ニフルレハスナハナ大  
乗成佛ノ種子ヲクダスキカス信セサランハアニオホキナル失ニアラ  
スヤト イヘリ十五慈雲釋文 元照觀經義疏上紙六ニ引ク所ノ文也  
靈芝ノ云ク一代彌陀ノ教觀ヲ準知スルニ皆是圓頓一佛乘ノ法ニシテ  
スナハナ摩訶衍ナリトイヘリ 十六靈芝釋文 元照觀經疏上紙五ノ文  
ナリ

オホヨソ彌陀ノ名號ハ一聲クナニトナフレハ八十億劫ノ生死ノ重罪  
ヲ滅シテ一念ノ心ニ無上大利ノ功德ヲウルナリ 十七觀經文二 初  
述意 是ハ觀經ノ文ヲ引ントシテ先其經意ヲ述ヘタマフナリ  
觀經ニ云クコエヲシテダエサランメテ十念ヲ具足シテ南無阿彌陀佛  
ヲ稱スルニ念念ノウナニヲヒテ八十億劫ノ生死ノツミヲノソクトイ

ヘリ 一正引 唯信文意ハニニ引テ釋シタマヘリ

無量壽經ニイハクソレカノ佛ノ名號ヲキクコトヲエテ歡喜踊躍シ乃至一念センモノアランマサニシルヘシ此人ハ大利ヲウトスナハナク

レ無上ノ功德ヲ具足スルナリトイヘリ 十八無量壽經文二 初爲得

大利文 一念大利無上功德ト説ク争テカ爾前ノ教無利益或ハ無間ノ業ト誹謗スルコトヲ得ルヤト示ス意ナリ

釋尊諸經ノナカニエラヒテヒトリ淨土ノ教ヲト、メタマフ止住スルコト百歳セン 一特留此經文二 初述意

オナシキ經ニイハク當來ノ世ニ經道滅盡センニソレ慈悲哀愍ヲモテ

ヒトリコノ經ヲト、メテ止住スルコト百歳センソレ衆生アリテコノ

經ニマウアフモノハコ、ロノ所願ニシタカヒテミナ得度スヘシトイ

ヘリ 一正引 此文隨意所願皆可得度トアリ何ソ無利益ト云ヘケン

ヤト云意ナリ

思益經ニイハク劫燒ノトキ江河マツ滅ス大海ノナニ竭ス法滅ノトキ

小乗教マツ滅シ大乘教ノナニ滅スト 十九思益經文三 初正引 是

ハ羅什譯ノ思益梵天所問經四ノ文ナリ 劫燒ノトキトハ大ノ三

災ノ中火災劫ノ時ナリ餘ノ文ハ知ルシ

シカルニ淨土ノ教ハ大小乗ノ色ノ經卷コトノク皆滅シテノナ百歳

止住スモシシカラハ大乘カナカノ大乘トイフヘキナリ 一成義 大

小乗ノ色ノ經卷トハ大小乗ノ黃卷赤軸ノ經文ノコトナリ 此文ノ

意ハ既ニ思益經ニハ大乘教ノナニ滅ストアリ然ルニ當來之世經道

滅盡トアレハ淨土教ハ聖道ノ大小乗ノ經卷滅盡ノ後百歳止住スト

アリ故ニ大乘中ノ大乘ナリ豈何ヲ觀經等ノ説ヲ大乘ニ非スト難ス

ヘケンヤト示ス意ナリ



モシナンナカ所立ノユトクンハ釋尊アニ我以慈悲哀愍特留此經トイ  
ハンヤ 三結難 若シ汝カ所立ノ如ク爾前ノ教無利益ナリトセハ釋  
尊慈悲哀愍ヲ以テ特ニ淨土教ヲ留メタマフヘキ理アラシヤト難破  
ヲ結成シタマフナリ

レカルニ天台大師ハ法華三昧ヲエテ法華ノ疏ヲツクリ光宅ヲ破シテ  
餘者望風トイフカノ光宅七度生シテ七度法華ノ疏ヲツクルトイヘト  
モ經ノ深意ヲシラスイハンヤ相傳ナクシテワツカニ經文ハカリヲ自  
見シテ諸經ノ明文ニクラクシテ漢家本朝ノ高德祖師ノ釋ヲ破シテア  
マツサヘ念佛無間ノ業トイフコノ義ヲ存センモノ出離ヲモトムルニ  
ハアラスシテ阿鼻ノ罪業ヲマチカン歟 三舉天台諸師誠謗法五  
初舉天台光宅誠 天台大師法華三昧ヲ證得セシコト天台ノ別傳  
ニ出ル法華ノ疏トハ三大部ノコトナリ光宅ヲ破シテトハ光宅寺ノ

法靈法師ノユトハ唐僧傳六<sup>五</sup>ニ出ル光宅ヲ破スルコトハ文句一之  
一<sup>十</sup>光宅ノ分科ヲ破シテアリ 餘者望風トハ立義二之一<sup>十</sup>ニ出ル  
魁首ヲ破スレハ其他ハ破セサレトモ風ヲ望ンテ自ラ降ルノ譬ナリ  
七度生シテ七度法華ノ疏ヲ作ルトハ世ノ傳說ヲ舉ル傳通記糅鈔  
十九<sup>三</sup>過去七佛ノ法華ニ疏ヲ造ルノ人也トアリ此光宅スヲ法華  
ノ深意ヲ得ス況ンヤ日蓮ノ說ハ自見ノ妄義ナルユト明カナリト云  
意ナリ 漢家本朝ノ高德祖師ノ釋ヲ破シテトハ錄内十二<sup>三</sup>慈恩嘉  
祥曇鸞ヲ破ス同十四<sup>四</sup>弘法慈覺智證ヲ破セリ 餘ノ文ハ知ルヘシ  
モシ法華ノ深意ヲシラハモハラ彌陀ヲタフトフヘシ 一明法華彌  
陀一體二三 初略標 天台傳教ノ釋ヲ引テ法華彌陀一體ノ義ヲ示  
ス標文ナリ

ユヘイカントナレハ天台大師普門品ヲ釋シテ云ク一乘妙法蓮華經ハ

觀自在ノ密號ナリ淨妙國土ニシテハ彌陀トナツケ五濁惡世ニシテハ  
 觀音トナツクトイヘリ亦イハクムカシ靈山ニアリテハ法華トナツク  
 今西方ニアリテハ彌陀トナツケタマツル娑婆ニシテハ稱シテ觀世  
 音トス三世ナリトイヘリ 二別明二 初舉天台釋 一本ニハ弘  
 法大師法華經ノ題號ヲ釋シテトアリ此言理趣釋經下<sup>紙二</sup>及ヒ法華開  
 題<sup>紙四</sup>ニ出ル是ハ其本ハ天台ノ語ニシテ弘法モ之ヲ用ヒラレタリト  
 見ユ是レ妙法蓮華ハ觀音ノ密號ソノ觀音ハ彌陀ト同體ナレハ法華  
 彌陀一體ノ義明カナリト云意ナリ 亦イハクトハ一本ニ古德ノ頌  
 トアリ沙石集四上ニ古德ノ口傳ニ曰クトアリ雜談集十<sup>七</sup>高野大師  
 彌陀觀音同一體ナルコト開題ニミヘタリトアリ爾レハ古德ノ頌ト  
 ハ弘法ノ法華開題ノコトナリ是亦天台ノ語ニシテ弘法モ之ヲ用ヒ  
 ラレタルナリ

傳教大師ノイハクハシメ妙法蓮華經ヨリヲハリ作禮而去ノ文ニイタ  
 ルマテ一々ノ文字ハ殊妙ノ理ナリミナコレ西方ノ阿彌陀佛ナリトイ  
 ヘリ 二引傳教釋 本理大綱集<sup>五</sup>取意ノ文ナリ

カクノコトクノ解釋ヲミルニ法華ト彌陀トマタク一體異名ナリ 三  
 結成一 初正結

モシシカラハ法華ヲ信センモノハモハラ彌陀ヲタフトムヘシ彌陀ヲ  
 信センモノハモトモ法華ヲタフトムヘシ彌陀ヲ信セスシテ法華ヲソ  
 シリ法華ヲ信シテ彌陀ヲソシランハタトヘハナカレヲクミテミナカ  
 ミチニコスカコトシ 二勸信 タトヘハナカレヲクミテミナカミチ  
 ニコスカコトシトハ韓詩外傳五<sup>紙二</sup>源清則流清源濁則流濁トアリ  
 源トハ法華彌陀ナリ人法異ナリトイヘトモ同體ナリ然ルニ彌陀ヲ  
 信シテ法華ヲ謗リ法華ヲ信シテ彌陀ヲ謗ルハ其源ヲ濁ス道理也

イハンヤ天台大師ノ解釋ニソムキテ相傳ナクシテ別義ヲダテ、シカ  
モ法華宗ト號スカクノコトキノ義目アラントモカラ信用ニアラス  
三誠背祖釋立別義 天台大師ノ解釋トハ近クハ次上ノ法華彌  
陀同一體ノ釋ヲ指ス意ナリ

ソモく大師ノ本地ヲトフラヘハ藥王菩薩ノ化身四十二品ノ無明ヲ  
斷ス等覺無垢ノ薩埵入重立門ノ大聖ムカシ靈山ニアリテハ法華ノ聽  
衆イマ晨州ニイテ、ハマタ法華ノ深意ヲサトル一代聖教ヲ高覽アル  
コト十五返シカルニコノ一事ニサヒテ靈山ノ法華西方ノ阿彌陀各別  
ナルニサヒテハアヤマツテ一體ト釋セラルヘカラス 四嘆大師德  
結一體義 大師ノ本地ノコトハ立義傳通記一十天台藥王垂迹專

弘一乘眞實之文ト錄内二十八<sup>紙七</sup>昔在靈山名藥王今在漢土名  
天台於日本名傳教トアリ 四十二品ノ無明ヲ斷ストハ十住十

行十廻向十地等覺妙覺ノ四十二位ニ各々一品ノ無明ヲ斷スルコト  
ナリ 等覺無垢ノ薩埵トハ瓔珞本業經上<sup>紙五</sup>等覺指シテ無垢地トア  
リ 入重立門トハ大部ノ四教義<sup>紙五</sup>入重立門倒修凡夫事トアリ  
テ等覺ノ位ニ於テ佛果ヲ成スル前ニ更ニ重テ無垢ノ凡夫地以來  
ノ所作ノ事ヲ修習シテ一理ニ稱フテ照スコトナリ七帖見聞六末  
<sup>紙四</sup>ニ委シク明セリ之ヲ入重立門ト云ハ後位ノ顯理明了ナルニ望  
メテ凡夫ノ方ヲ立門ト云意ナリ又理體ヲ指シテ立ト名クルコトモ  
アリ此時ハ等覺ノ菩薩妙覺ノ立理ニ入ルヲ入重立門ト云ヘキ歟ト  
アリ然レトモ是ハ重テ倒修凡事ノ立妙ノ法ヲ修スルコトナリ  
ムカシ靈山ニアリテハ等トハ天台ノ別傳ニ思日昔日靈山同聽法  
華等トアリ 一代聖教ヲ高覽アルコト十五遍トハ同シク別傳ニ  
造寺三十六所大藏經十五藏トアリ 一代聖教ヲ高覽十五返ト云コ

トハ要集上末五十一大師披閱一切經論凡十五遍トアリ 餘ハ文ノ如シ

カクブコトキノ大聖タリトイヘトモ臨終ニノソソシテ西方往生ノ素壞ヲトケタマヘリ 五明三大師西方往生五 初略明 天台法華三昧懺

儀六十願命終時神不亂正念直往生安養面奉彌陀值衆聖修行十地勝常樂トアリ又次下所引ノ大師ノ別傳ヲ併セ見ルヘシ

彼別傳ニ云クコノ妙法華ハ本迹二門ニシテソノ理深遠也サトリカタクイリカタシシハラクナイテ論セスナハチ西方ニマウテ、佛ニマウアヒタテマツリテサトリチヒラカン四十八願ヲモテ淨土ヲ莊嚴ス華池寶閣ユキヤスクシテヒトナシ火車相現スレトモヨク改悔スルモノハナチ往生スルコトヲウルナリイワンヤワレ戒慧薰修スルナンソ生スルコトヲエサラン已上 二別傳 是ハ別傳ノ全文ニ非ス唐僧傳

二十一三十一萬善同歸集二二法華三昧儀ノ願文等ヲ取合セテ引キタマフナリ 法華ノ本迹二門ノコトハ決智鈔本左ハ辯シタルカ如シ餘ハ知ルヘシ

コレニヨリテ天台ノ往生都率西方ニアラソヒアリ是レハ妙樂コレヲ會シタイハクシカルニ大師生存ニハツチニ都率ニ生セント願シテ臨終ニハスナハチ觀音來迎ストイフマサニシルヘシ軌物機ニシタカヒ縁ニシタカヒテ化ナムウクルコト一準ナルヘカラス已上 三通疑

都率ハ兜率天ノ内院ニテ彌勒ノ住處ナリ西方ハ彌陀ノ淨土ナリ妙樂ノ會釋ハ輔行一之一九三十一出ル 軌物トハ衆生化益スル軌範ノコトニテ都率西方ノ不同隨機益物機感ノ差別ニシテ一準スヘカラストノ會通ナリ

傳文トイヒ妙樂トイヒ天台ノ西方往生タレカコレヲアラソハン 四

結成 文ノ如シ

モシナンチカ所立ノコトキハ極樂往生虛説ナラハ大師アニ西方往生  
ヲトケラレンヤ 五誠邪 嚴シク難者ヲ誠メタマヘリ

難シテ云ク諸經論ノ文ナラヒニ人師ノ疏釋ヲヒキテ念佛往生ノ義ヲ  
タツトイヘトモナチモテアキラカナラスヒクトコロノ諸經ミナコレ  
爾前ノ教ナリ爾前ノ教ハ方便ノ説ナルカユヘニ方便ノ教ヲ所依トシ  
テツクルトコロノ菩薩ノ論人師ノ釋ミナコレ方便ノ説ニ屬スヘシタ  
トヒ法華ニツイテツクル疏釋タリトイフトモ諸師ノ意樂マナクナ  
ルカユヘニ法華ニ合セハコレヲモナウヘシ經文ニ合セスシテハ依用  
スヘカラスタトヒ大師ノ解釋タリトイフトモ義ニヨリテ取捨アルヘ  
シ 第二別問答四 初念佛無間等問答二 初問三 初爾前方便難

此第二問答ハ第一問答ヨリ別開シタルコト明カナリ 問ノ文ニ三段

アリ何レモ第一問答ノ中ニ出ル此問ノ三段ノ中第三ノ念佛無間ノ  
難ヲ以テ主トス故ニ答ノ文ノ中初二廣ク念佛無間ノ難ヲ通シ後ニ  
略シテ餘ノ二難ヲ答ヘテアリ 第一難ノ意ハ爾前ノ方便説ニ依ル  
ヘカラス設ヒ法華ノ註タリトモ諸師ノ釋ハ 經意ニ合セサレハ依  
用スヘカラス設ヒ天台大師ノ釋タリトモ義ニヨリテハ取捨スヘシ  
ト第一問答ノ答ニ就テ此難ヲ立テタルナリ

タ・シヒクトコロノ即往安樂世界ノ阿彌陀ハ汝カ所立ノ西方極樂世  
界ノ阿彌陀ニアラス己身ノ阿彌陀ナリ安樂世界トイフハ法身ノ所居  
ヲ安樂世界トナツクルナリ 二己身彌陀難 ヒクトコロトハ上ノ  
ニ引ク所ノ法華ノ藥王品ノ文ナリ其意知ルヘシ  
次ニ念佛無間ノ業トイフハ直ニ念佛ヲ無間ノ業トイフニハアラス念  
佛ノ行者法華ヲ毀謗スルカユヘニ能修ノ機ニ約シテ所修ノ念佛ヲ無

問ノ業トナツクルナリ 三念佛無間難三 初立自義 此念佛ヲ無  
問ノ業ト云ニ付キ上ニ能修ノ人ニ約スルト所修ノ法ニ約スルトノ  
二意アルコトヲ辯シタル中今ハ能修ノ人ニ約スル義ニ就テ廣ク之  
ヲ難スルナリ

淨土ノ祖師善導和尚往生ノ行ニテヒテ正雜二行ヲタテ念佛ノ一行  
ヲ正行トシ自餘ノ諸善ヲユトク雜行ト ナツク 一難兩師二  
初正難兩師 一初難光明二 初雜行不生難三 初總難 此正難  
二行ノ判釋ハ散善義紙八ニ出テタリ

シカルニ觀經ノ說相ヲミルニ九品往生ノムチヲアカス上品上生ニハ  
讀誦大乘ヲ受法トスシカラハ讀誦大乘ノナカニ法華モルヘカラス若  
シカラハナンソ法華ヲ雜行ニ攝セン 二別難三 初讀誦大乘難 讀  
誦大乘ハ三福ノ中ノ隨一ナリ法華モ此中ニ攝スルヲ以テ雜行ナルコ

ト明カナリ

カノミナラス雜行ニテヒテハ一二三五ノ往生ヲユルストイヘトモ  
ノケニハ千中無一ト結ス 二千中無一難 是ハ禮讚紙五ニ雜修ノ人ハ  
始メハ一二三五ノ往生ヲ許シ後ニハ千中無一ト結シテアリ之ヲ雜  
行ノ失トスルハ例ノ如ク善導ノ上ニテハ雜行即雜修ノ意ニテ大判  
門ナリ

アマサヘ雜行ニツイテ十三ノ失ヲイダスコトクコレ謗法ナリ  
三十三過失難 禮讚紙五ノ所明ナリ

シカルニ法華ハコレ三世ノ諸佛ノ出世ノ本懷一切衆生ノ成佛ノ直道  
ナリナンソ雜行ニ攝シテ不生トイハンヤ是レ一ツ謗法 三結難 錄内二  
十一紙八大小權實ノアル中ニ諸佛出世ノ本意衆生成佛ノ直道ノ一乘  
トアリ知ルヘシ

ツキニ三心ヲ釋スルニ廻向心ノナカニ二河白道ノタトヘチナシテ異  
學異見別解別行ノモノヲ群賊惡獸ニタトフ別解別行ノナカニ法華  
ヲモラスヘカラスコレマタ第一ノ謗法ナリ是レニツ 二群賊惡獸難是  
レ亦非難ナルコト知リ易シ

次ニ和國ノ法然上人ノ選擇集ニ善導ノ疏ノ五種ノ正行ヲヒキテ五種  
ノ正行ニ相對シテ第一ニ讀誦雜行ヲイマス文ニイハク第一ニ讀誦雜  
行トイフハカミノ觀經等ノ往生淨土ノ經ヲソキテ已外ノ大小乘ノ  
顯密ノ諸經ニナヒテ受持讀誦スル悉ク讀誦雜行トナツク已上ステニ  
大小乘ノ顯密ノ諸經トイフコノナカニ法華モルヘカラス是レ三ツノ  
謗法 二難黑谷四 初讀誦雜行難 選擇集本紙八ノ所明ナリ

ツキニ聖道難證ノ義ヲ立センカタメニハシメニハ顯大權大ヲヒキテ  
歷劫迂廻ノ行トシノナニハコレニ準シテコレヲオモフニ密大ヲヨヒ

實大ヲ存スヘシト釋シテ法華ヲモテコレヲ歷劫迂廻ノ行ニ準セシメ  
テ應存ストイフ法華ハコレ速疾頓悟ノ教ナリ證ヲトルコトタナコ、  
ロチカヘスカニトシカクノコトキノ速疾頓悟ノ教ニナヒテ歷劫迂廻  
ノ行ニ準スルコトコレマタ謗法ナリ

難 是ハ選擇集本右三ノ所明ナリ

次ニ壽經ノ三輩ト觀經ノ九品トナヒキアハセテ得失ヲ判スルナカニ  
イハク諸行ハ廢ノタメニシカモコレヲトク念佛ハ立ノタメニシカモ  
コレヲトク已上三廢立謗法難是ハ選擇集本紙十ノ所明ナリ

シカノミナラス念佛ノホカノ自餘ノ諸行ヲ捨閉閣拋ト所々ニコレヲ  
釋スカクノコトキノ義立イカテカ謗法ノツミ ノカレン 四捨閉閣

拋難 是ハ選擇集本紙六捨難行トアリ同末紙十還閉定散門トアリ同  
紙十且閣聖道門トアリ同紙十且拋諸雜行トアリ選擇集一部ニ亘リ淨

土ノ行ニ非サルモノヲ廢スル所ニ捨閉閣抛ノ言アリ之ヲ集メテ此  
名目ヲ立ル録内三十四二十此名目アリ是レ廢立ヲ謗法トシテ難スル  
ナリ非難ナルコト知ルヘシ

法華ノ二長者ニ云クモシヒト信セスシテ此經ヲ毀謗スレハスナハテ  
一切世間ノ佛種ヲ斷ストコノヒトノ罪報ナンテ今マタキケソノヒト  
命終シテ阿鼻地獄ニイリテ一劫ヲ具足ス上一引二經證二 初正

引二經二 初法華經二 初引文 二經ノ文ヲ引テ念佛無間ノ證  
トシテ難スルナリ 法華ハ科註二上六十譬喻品ノ文ナリ

コノ經ヲ信セスシテ毀法スルモノハ必定シテ阿鼻ニ墮在スヘキ一現  
文分明ナリ近代念佛修行ノ人法華ヲ信セスシテアマサヘ雜行ノモノ  
往生スヘカラストイフ如此ノ義觀經ノ說相ニモソムクト云 二成義  
涅槃經ニイハク信不具ナルカユヘニ闡提トナツク上 二涅槃經

二 初引文 北本二十六ノ文ナリ

シリヌ法華ヲ信セサルモノハスナハテ謗法ナリ 二成義

マダ不信ハスナハテ闡提ナリカルカユヘニカミハ若人不信トイヒシ  
モノハ則斷一切世間佛種トイフアキラカニシリヌ法華ヲ信セサルモ  
ノハスナハテ謗法ト闡提ト二罪業ナリカルカユヘニ罪業阿鼻ニアリ

二合二經證 カミトハ法華ノ上ノ段ノ文ナリ シモトハ同シキ  
下ノ段ノ文ナリ

コノ義ヲモテノユヘニ念佛無間ノ業トナツクルナリイカン 三結  
立義 文ノ如シ

答ヒクトコロノ若人不信ノ文ハ總シテ佛法ヲ信スル心ナキモノヲ不  
信トイフナリ餘經ヲ信シテ法華ヲ信セサルヲ不信トイフニアラス

二答三 初會念佛無間難二 初會法華涅槃文二 初會法華文



二 初正會 前來問ノ中二段アリ上ニ辯スル如ク第三ノ念佛無間ノ難ヲ以テ主トスルカ故ニ初ニ之ヲ通釋シ後ニ餘ノ二難ヲモ會シタマウ其中今ハ先譬喩品長者偈ノ文ヲ引キタマフ 若人不信トハ總シテ佛法ヲ信サセル者ノコトナリ餘經ヲ信シテ法華ヲ信セサル者ヲ云ニ非スト云フコトナリ彼徒ハ念佛ヲ信セサレトモ念佛者ハ然ラス散善義<sup>紙五</sup>我亦不信<sup>紙五</sup>彼諸經論盡皆仰信トアリ故ニ廢立ニシテ謗法ニハ非スト會スルナリ

法華ノ七<sup>品</sup>ニイハクモシ衆生アリテ信受セサランモノハマサニ如來餘ノ深法ノナカニテ示教利喜スヘシ<sup>紙上</sup> 一引經二 初正引經 法華七八科註七<sup>紙上</sup>ノ文ナリ此文ハ法華ヲ聞クニ堪ヘサラン者ニハ餘ノ深法ヲ授ケヨト云意ナリ此深法ヲ天台ハ別教ト釋ス存師ノ釋ハ次下ニ出ル如シ

法華ヲ信セサルモノハ餘教ノナカニテ示教利喜スヘシイフ文分明ナリコノ文ヲ見ナカラ法華ヲ信セサルモノハ謗法ナリトイヒ法華以前ノ教ニ得益ナシトイフ 不足言ナリ 一釋經意二 初正釋經意 文ノ意解シ易シ

法華ノホカニ深法アリトイフコトタレカコレヲアラソハンイフトコロノ深法トイフハスナハチ淨土ノ教ヲサスナリユヘイカントナレハ彌陀ノ本願釋迦ノ留教諸佛ノ證誠カキリテ淨土ノ教ニアリ 一釋深法言三 初述意 法華ノ文明カニ餘ノ深法トアレハ法華ノ外ニ深法アリト云コト諍ヒナシ其深法トハ諸宗ノ解釋區々ニナレトモ今宗ヨリ見レハ淨土教ヲ指ス 彌陀ノ本願トハ大經正宗ノ說釋迦ノ留教トハ大經流通ノ說ナリ諸佛ノ證誠トハ彌陀經ノ說ナルコト知ルヘシ

無量壽經ノ下卷ニ云ク無量壽佛ヲ念シタテマツリテソノクニ。生セント願シテモシ深法ヲキ。テ歡喜セン。一引證一初正引大經文

イマタ諸教ノナカニテヒテ如此ノ説ヲキカス。二成義

コノ義ヲモテユヘニ天台ハ一代聖教ノ結經ト判ス妙樂ハ多在彌陀ト讚ス慈雲法師ハ淨土ノ彌陀ヲヒトタヒ耳根ニフルレハ即ハナ大乘成佛ノ種子ヲクダスト釋ス元曉ノ釋ニハ兩尊出世ノ本意四輩入道ノ要門ミ。ニ經名ヲキ。テスナハナ一乘ニイリテシカモ退スルコトナシクナニ佛號ヲ誦シテスナハナ三界ナイテ。シカモカヘラス慈恩ノ四方要決ニイハク不了ノ教ハ涅槃之會ニ釋通シ淨土ノ一門ハ願林ニサラニ疑決ナシ諸佛ノ舒舌ヲ引成シテコノ二義ニヨルカユヘニ方便ニアラス已上慧心ノ釋ニハシカルニ受信ナス。ム願生ヲ成セントスルコ

レ佛ノ本懷ナリ輕爾スヘカラス已上。一廣引他師釋。此諸文ノ中

天台妙樂慈雲ノ三師ノ釋ハ已ニ此上紙十ニ引キタルカ如シ。元曉ノ釋

トハ彌陀經疏紙二ノ文ナリ。四輩ハ四部ノ弟子ナリ。慈恩ノ西方ハ要決九十

ノ文ナリ。此二義トハ佛涅槃ノ會ニ疑決ナキト諸佛ノ舒舌證誠ナリ

此二義ヲ以テ淨土教ハ方便ニ非ス了義教ナリト釋セリ。慧心ノ釋

トハ彌陀經畧記紙十ノ文ナリ

コノ義ヲモテノユヘニ淨土ノ教ヲ深法トナツクルナリ。三結成

ツキニ不信ヲ闡提トイフハ總シテ佛法ノ信ナクシテ因果ヲヤフルヲ

闡提トナツクルナリ涅槃經ニイハク一闡ヲハ信トナツケ提ヲハ不具

ナルカユヘニ一闡提トナツク已上シカルニワレラ法華ニツイテ出離

ヲモトメス。ムトイヘトモ同心ニ念佛ヲ行シテシカモ法華ヲ謗セス

二會涅槃經文二一初正釋一闡提此涅槃經ニ一闡提ヲ信不具決ト

云ハ總シテ佛法ヲ信セス因果ヲ破壊スル者ナリ彼法ヲ信セストモ此法ヲ信スル者ハ闡提ニ非サルナリ然ルニ我等念佛ヲ行シテ出離ヲ求ムモトヨリ法華ヲ謗セス何ソ闡提ト名クルノ理アラシヤ

ナンナカ所説ノコトク法華ヲ信セサルモノヲ謗法闡提トイハ、涅槃經ニイハク蟻子ヲ殺害シテハナチシ殺罪ヲウルナリ一闡提ヲユロスハ殺罪アルコトナシ已上モシシラカハ餘法ヲ信シテ法華ヲ信セサルモノヲコロシタラハ蟻子ヲ害スルヨリモ殺罪ナシトイフヘキ歟モシユノ義ヲ存セハコレスナハナ闡提ナリ因果ヲシラサルカユヘニ 二引涅槃反質 涅槃經トハ北本三十三ノ文ナリ此文ニ蟻子ヲ殺害シテハナチシ殺罪ヲ得ルナリ一闡提ヲコロスハ殺罪アルコトナシトハ更ニ何等ノ佛教ヲモ信セス至愚有害ノ惡人ノコトナリ例ヘハ世間ニ於テ赤子ヲ殺スハ罪アルモ國賊ヲ殺スハ

罪ナキカ如シ若汝カ如ク他教ヲ信ストモ法華ヲ信セサル者ヲ殺ストモ蟻子ヲ殺スヨリモ罪ナシト云ヘキカ果シテ然ラハ汝コソ至愚有害ノ闡提ナリ因果ノ理ヲ知ラサルモノナリト反難シタマフナリ

ツキニ和尚上人兩師ノ御釋ヲヒキテ謗法トイフコト不足言ナリコレスナハナ文ニマヨヒ 理ニクラキカユヘナリ 二會兩師謗法難二一初總會 是ハ此上右ハ以下兩師ニ對スル難アリ其先總シテ文理ニ暗キカ故ナリト破シタマフ

兩師トモニユトク諸行往生ヲユルス立義序題ニイハクコ、ロニヨリ勝行ヲオコスニ門八萬四千ニアマレリ漸頓スナハナ所宣ニカナフ縁ニシタカフモノハ皆解脱ヲカウフル已上 二別會一 初會善導釋二 初正會善導釋文四 初會雜行不生難二 初引諸行往生

法華問答釋述 法華經疏

文二 初引善導四文二 初序題門文 自下所引ハ念佛ニテ淨土ニ往生スルハ勿論諸行モ亦往生スト明ス文ナリ其中此立義分ハ二ノ文ナリ佛一代ノ教法何レモ有縁ノ法ニ依テ修行スレハ其益アルコトヲ明シタマフ

オナシキ立義ニイハク定散ヒトシク廻向スレハスミヤカニ無生ノ身ヲ證ストイヘリ定散ノホカニイカナル行アリテカ不生トイハン 二歸三寶偈文 此文要門ニ約セハ定散ノ諸行ヲ廻向シテ往生ノ因トスレハ速ニ淨土ニ生シテ無生忍ヲ得ル是レ化土ノ往生ナリ又弘願ニ約セハ廻向トハ廻心趣向ニテ六要ノ廻思向道ノ廻向ニ同シク定散諸機各別ノ自力ノ三心ヲ翻ヘシ弘願ノ大道ニ趣キ向ヘハ速ニ報土ニ生シテ眞如法性身ヲ證ルコトナリ此ニ義ノ中今ハ要門ニ約スル方ナリ

法事讚ニイハク如來五濁ニ出現シテ隨宜ニ方便シテ群萌ヲ化スアルヒハ多聞ヲトキテシカモ得度セシメ或ハ少解ヲトキテ三明ヲ證スアルヒハ福慧ナラヘテサハリヲソクトナシヘアルヒハ禪念シテ坐シテ思量セヨトナシフ種々ノ法門ミナ解脱スレトモ念佛シテ西方ニユクニスキタルハナシトイヘリ 三法事讚文 是ハ下ニテ念佛ト諸行ニツキ方便眞實ヲ顯シテ佛出世ノ本懷ヲ明ス諸行ハ方便ナレトモ皆解脱ノ益アルコトヲ示シタマフ

般舟讚ニイハクアルヒハ人天ニ乘ノ法ヲトキアルヒハ菩薩涅槃ノ因ヲトキアルヒハ漸アルヒハ頓空有人法ニ障ナラヘテソカシムルヲアカス根性利ナルモノハミナ益ナカウフル鈍根無智ニシテハ開悟シカタシ 已上 諸行往生ノ文シケキヲオソレテ略ス 四般舟讚文 是ハ二ノ文ニテ佛教マナクナリトイヘトモ何レモ人法ニ障ヲ除キテ眞理ヲ證セ令ル利益アル

コトヲ明シタマヘリ

オホヨソ諸行往生ナユルスコト善導一師ニカキラス道綽禪師ハ萬行往生トイヒ懷感禪師ハ諸行往生トイフ慧心マタコレニオナシ 一更指ニ師釋ニ 選擇集本<sup>十一</sup>ノ意ナリ

タ・シ念佛等ノ五種ノ正行ハモハラ西方ノ業ナルカユヘニ正行トナツク五種ノホカニ自餘ノ諸行ハアルヒハ人天ヲヨヒ三乘ニ通シアルヒハ十方淨土ニ通スル行ナルカユヘニナツケテ雜行トイフ 一釋ニ正雜二行名四 初正釋ニ正雜二行名 此正雜二行ノ判釋ハ散善義<sup>八</sup>ニ出ル選擇集本<sup>十一</sup>純者修正助二行者純是極樂之行也雜者是純非極樂之行通於人天及以三乘亦通於十方淨土故云雜也トアリ正トハ純也純一無雜ノ義ナリ雜トハ疎雜ノ義雜攝ノ義雜通ノ義種々アレトモ今ハ雜通ノ義ヲ出シタマフ

オホヨソ大小乘ノ經論ノナカニ純雜ノ二門ヲタツ其例ヒトツニアラス大乘ニハスナハナ八藏ノナカニヲヒテ雜藏ヲタツ七藏ハコレ純一藏ハコレ雜藏ナリ小乘ニハ即四阿含ノナカニオイテシカモ雜含ヲタツ三阿含ハコレ純一阿含ハコレ雜ナリ律ニハスナハナ二十健度ヲタテ、以テ戒行ヲアカスソノナカニマヘノ十九ハ純ノナヒトツハコレ雜健度ナリ 一廣出純雜例選擇集本<sup>十</sup>純雜ニ付キ七例ヲ舉ル中大小律ノ三例ヲ出シタマフ八藏トハ處胎經五<sup>六</sup>ニ出ル謂ク胎化藏中陰藏摩訶衍方等藏戒律藏十住菩薩藏雜藏金剛藏佛藏ナリ 四阿含トハ四教儀集解上<sup>七</sup>ニ出ル增一阿含中阿含雜阿含長阿含ナリ二十健度トハ四分律三十一ヨリ五十三マテニ之ヲ明ス健度ハ此ニ法聚ト云フ受戒健度說戒健度安居健度<sup>九</sup>雜健度ナリ  
モシナンナカ所難ノコトク雜行ヲタツルヲモテ謗法トイハ、大小乘

ノナカニ純雜ヲタツル皆是謗法トイフヘキヤ 三反諸彼所難

謗法トイフハナンナカ所立ノコトク眞言ハ亡國禪ハ天魔ノ所行念佛ハ無間ノ業トイフカクノコトキノ説コトク謗法ナリイカテカ三惡道ヲノカレン大論ニイハク自法ヲ愛染スルカユヘニ他人ノ法ヲ毀皆スレハ持戒ノ行人ナリトイヘトモ地獄ノ苦ヲマヌカレス<sup>上</sup>四反

難彼所立 阿彌陀佛ハ無間ノ業禪ハ天魔ノ所爲眞言ハ亡國ノ惡法律宗持齊等ハ國賊也ト錄内二十一<sup>八</sup>ニ出ル之ヲ合セテ四箇ノ格言ト云ナリ 文ノ意知リ易シ 大論ハ一<sup>十</sup>ノ文ナリ

ツキニ十三ノ得失トイフハ念佛ハ本願ノ行ナルカユヘニ佛ノ本願ト相應スルカユヘニトイフナリ餘善ハ本願ニアラスカルカユヘニ佛ノ本願ニ不相應トイフ教ニ違セサルカユヘニトイフハ淨土ノ三經ノ中ニ所々ニ念佛ヲアカシモテ勝行トス餘善ハシカラス故ニ不違教故ト

イフ念佛ハコレ十方恒沙ノ諸佛ノ證誠ナルカ故ニ隨順佛語トイフ貪瞋諸見キタリテ間斷セストイフハ二義アリ一義ニイハク觀佛經ノ六譬ノコ、ロニヨラハ念佛ハ煩惱ノタメニ染セラレスト<sup>三</sup>一義ニイハク貪瞋ハ煩惱濁ナリ諸身ハ見濁ナリ俱舍ニ云ク煩惱濁ハ在家ノ善ヲ損シ見濁ハ出家ノ善ヲ損ス在家ノ善トイフハ造像起塔供佛施僧等ナリ出家ノ善トイフハ四諦十六行相等ノ觀法ナリコレスナハナ事ト理トノ二善ナリシカルニマサニ理觀ニ住セントスレハ諸見キノヒオコルモシ事ノ善ヲ修セント欲スレハ貪瞋生スルニヨリテ念佛ヲ修ス財寶ヲモナサレハ貪瞋コ、ロニナコラス觀法ヲモナサレハ諸見オコルコトナシモシ雜行ヲ修スルモノ煩惱オコルトイヘトモ行ノナカノ起惡微細ニシテワキマヘカタシソノトカナシラサルカ故ニ懺悔ノコ、ロナシ念佛ヲ行スルモノハ常ニ懺悔ヲ修ス念々稱名常懺悔ト

イヘリ正行ヲ修スルモノハ佛恩ヲ報ス經ニイハクミツカラモ信シヒトヲナシヘテ信セシムルコトカタキカナガニウタ、サラニカタシ大  
悲ヲツタヘテアマチク化スマコトニ佛恩ヲ報スルニナルト己上雜行  
ヲ修スルハ心ニ輕慢ヲ生ス名利ト相應ストイフハ正行ヲ修スルモノ  
ハヒトヘニ佛ノ大願ヲタノム雜行ヲ修スルモノハコ、ロニ三學アリ  
ト念シデ貴己等佛ノ見ヲオユスカルカユヘニ慢舉ヲ生スルナリ人我  
ミツカラオホフトイフハ正行ヲ修スルモノハ自機ヲシリテ貴己ヲ生  
セス善友ニ親近ス雜行ヲ修スルモノハミツカラノ三學ヲタノミテ心  
高慢ヲイタク故ニ名利ト相應ス 三會十三得失難二 初正會 是  
ハ禮讚ニハ專修ニ四得雜修ニ十三失アリ失ノ數、得ヨリモ多キハ  
雜修ノ過失ノ多キコトヲ知ラ令メンカ爲ナルコト知ルヘシ然ルニ  
得失ハ反對ノ法ナレハ十三ノ失ニ對シテ十三ノ得アルコト明カナ

リ今ノ所明然リ故ニ今十三ノ得失ト名ケタマフナリ其十三失ノ中  
二三四八九十一十二ノ八失ヲ出シテ一五六七十三ノ五失ヲ略シ  
タマヘリ即チ應不應ト違不違ト順不順ト間不間ト慚無慚ト報不報  
ト慢不慢ト親不親トナリ 念佛ハ本願ノ行ナルカユヘニ<sup>乃</sup>不相應  
トイフニ第二ノ失ナリ得ニ對シテ失ノ明カナルコトヲ示シタマフ  
教ニ違セサルカユヘニ<sup>乃</sup>不違教故トイフハ第三ノ失ナリ得ニ對  
シテ明スコト知ルヘシ 念佛ハコレ十方恒沙ノ諸佛ノ證誠ナルカ  
ユヘニ隨順佛語イトフハ第四ノ失ナリ是ハ得ヲ舉テ失ヲ反顯シタ  
マヘリ 貪瞋諸見キタリテ間斷セストイフハ<sup>乃</sup>諸見オコルコトナ  
シトハ第八失ナリ是亦得失ヲ對辯シ而モ標文ニハ得ノ方ヲ舉ケタ  
マヘリ此下二義ヲ設ケタマフ初義ハ觀佛三昧經十九ノ說ヲ舉ル然  
ルニ六譬ノ中念佛ハ煩惱ノタメニ染セラレストノ譬ハナシ是ハ古

徳相傳ノ説ト見ヘタリ選擇決疑鈔二二ニモ出テタリ 後義ハ貪瞋  
ト諸見ヲ煩惱濁ト見濁ニ配ス是レ鈍使ト利使ナリ俱舍八十二紙八二  
テ決疑鈔二二ニ倣ヒタマヘリ是ハ在家出家ノ善根ヲ損害スルニ配  
ス在家ノ善ハ知ルヘシ出家ノ善トハ四諦ハ苦集滅道ナリ十六行相  
トハ此四諦ノ理ヲ觀スルニ各々四行相アリテ十六行相ヲ成ス謂ク  
苦空無常無我集因生緣滅靜妙離道如行出ナリ 事ト理トノ二善ト  
ハ在家ノ善ハ事相ナリ出家ノ善ハ理觀ナリ 理觀ニ住セントスレ  
ハ諸見キヲヒオコル等トハ失ノ相ヲ示ス 念佛ヲ修スルハ財寶ヲ  
モナ井サレハ等トハ得ノ相ヲ明シタマフ モシ雜行ヲ修スルモノ  
煩惱オコルト雖モ乃常懺悔トイヘリトハ第九ノ失ナリ是レ亦得ニ  
相對ス雜修ノ人ハ常ニ自修ノ功ヲ恃ムカ故ニ行業ヲ修スル中ノ起  
票微細ニシテ其過ヲ知ラサレハ懺悔ノ心ナシ 念佛ノ人ハ銘文本

一稱佛六字ノ文ヲ釋シテ即懺悔ト云ハ南無阿彌陀佛ヲトナフルハ  
スナハチ無始ヨリコノカタノ罪業ヲ懺悔スルニナルトマフスナリ  
トアリテ法徳トシテ自ラ罪業ヲ懺悔スルニナルト云コトナリコト  
サラ勵ミテ懺悔スルニハ非ス 念々稱名常懺悔ノ文ハ般舟讚七ノ  
文ナリ此文モ自力ノ懺悔ニ濫スヘカラス今家ノ信後ノ念佛ハ報恩  
ノ念佛ナリ懺悔ノ念佛ト思フヘカラス是ハ念佛ノ行ニ就テ懺悔ノ  
徳アルコトヲ示ス若シ信徳ヨリ云ヘハ眞心徹到スルヒトハ金剛心  
ナリケレハ三品ノ懺悔スルヒト・ヒトシト宗師ハノタマヘリトア  
リ知ルヘシ 正行ヲ修スルモノハ佛恩ヲ報ス乃報スルニナルトハ  
第十ノ失ナリ是ハ得ノ相ヲ舉テ失ヲ反顯シタマフ 經ニイハクト  
ハ禮讚四ノ文ナリ之ヲ佛經トシテ引クハ口傳鈔下右其例アリ披キ  
見ルヘシ 雜行ヲ修スルハ心ニ輕慢ヲ生ス乃慢舉ヲ生スルナリト



ハ第十一失ナリ是ハ得失ヲ對辯シタマフ 貴己等佛ノ見トハ止觀  
一之三<sup>九三</sup>若無智起增上慢謂己均佛トアリ今ハ決疑鈔二<sup>三十一</sup>ニ倣  
ヒタマフト見ヘタリ 人我ミツカラオホフトイフハ正行ヲ修スル  
モノハ<sup>乃</sup>相應ストハ第十二失ナリ 知ルヘシ

カクノコトク得失ヲ判スルコトタ・コレ佛說ニマカスナンソ謗法ト  
イハン 二反詰

タ・シ千中無一ノ釋ニイタリテ能別ノ言ヲ置テ不至心者千中無一ト  
イフソレ實ニハ正行タリトイフトモ至心ナクハ生セスシカリトイヘ  
トモ雜行ハ至心具足シカタシ正行ハ至心具足シヤスシ故ニ雜行ノ文  
ヲ出シテ不至心者等トイフナリ 三會千中無一難 雜行ヲ修スル  
者モ不至心者ト云ハ雜行ヲ修スル者皆千中無一ト云ニ非ス雜行ヲ  
修スル者ノ中至心ナラサル者ハ千中無一トイフナリ爾レハ難スヘ

キコトニ非スト會スルナリ ソレ實ニハ正行タリトイフトモ至心  
ナクハ生セス等トハ伏難ヲ通ス其故ハ雜行ノミニ非ス設ヒ正行タ  
リトモ不至心ナラハ往生セスシカルニ雜行ノ人ハ至心具足シ難シ  
自力ナルカユヘナリ正行ノ人ハ至心具足シ易シ他力ナルカユヘナ  
リ

ツキニ群賊惡獸ノタトヘナモテ謗法トイフ義コレマタ不足言ナリ文  
ニイハクアルヒハコクコト一分二分スルニ群賊ヨハヒカヘストイフ  
ハ別解別行惡見人等ミタリニ見解ヲ說テタカヒニアヒ惑亂シヲヨヒ  
ミツカラツミナツクリテ退失スルニタトフステニ別解別行惡見人等  
トイフナンソ謗法トイハン別解別行ノ人ワレラカ往生ノ大益ヲ失ス  
ルカユヘニ群賊ニタトフ惡獸イツハルトイフハ衆生ノ六根六識六塵  
五陰四大ニタトフ惡獸ヲ別解別行ニタトフルニアラス 四會群賊

惡獸難二 初正會 異學異見ノ人ニ二類アリ一ニ聖道門ノ人其  
教ヲ修行シテ念佛行者ノ妨ケヲセサル者ハ群賊惡獸トセス二ニ聖  
道門ノ人自教ヲ行ストイヘトモ念佛行者ヲ妨クルヲ群賊ニ譬フル  
ナリ故ニ別解別行ノ下ニ惡見人トアリ 次ニ衆生ノ六根六識等ヲ  
惡獸ニ喩フルコトハ今ノ所用ニ非サレトモ合セテ之ヲ釋シタマフ  
惡獸ヲ別解別行ニタトフルニアラストハ二河喩ニハ六根六識等  
ノ方ニハ群賊惡獸トアリ別解別行ノ方ニハ群賊等トアリ故ニ此簡  
ヒノ言アリ愚禿鈔下九十群賊ヲ別解別行ニ當テ惡獸ヲ六根等ニ當テ  
アリ

オホヨソ二河白道ノタトヘハ大論涅槃經等ニヨリテコノタトヘナツ  
クル大論ニイハク貪愛瞋憎フカクシテソコナシ水火ノ二河マタホト  
リナシ中路ノ白道微少ナリトイヘトモ信心決定シテ西ノ岸ニイタル

已上 一ニ示據一 初二河白道譬 大論ハ三十七七譬如人行狹道一邊  
深水一邊大火二邊俱死ト涅槃經ハ北本二十三四南本二十一初四大  
毒蛇五陰旃陀羅六塵賊ノ譬アリ 等トハ寶積經百七初ニ大餓空澤  
ノ譬アリ安樂集上七譬如有人於空曠迥處值遇怨賊等トアリ此等  
ヲ等シタマフナリ 大論ニイハクノ六字ナキ本ヲ善トス 貪愛瞋  
憎フカクシテ等トハ二河喩ノ意ヲ撮畧シテ示シタマフ大論ノ文ニ  
非サルナリ

群賊惡獸ノタトヘハ涅槃經ニヨル異學異見ノ行體ヲ群賊惡獸ニタト  
フルニアラスト又ナンケカ所說ノコトク念佛無間ノ業トイフカクノコ  
トキノ謗法邪見ノトモカラヲ群賊ニタトフルナリ 二群賊惡獸喩  
此涅槃經ハ次上ノ涅槃經ト同處ナリ 異學異見ノ行體トハ聖道門  
ノ行法ノコトナリ聖道ノ行體ヲ群賊ト云ニ非ス惡見ヲ以テ念佛修

行ヲ妨クル者ヲ群賊ニ喩フルナリ即チ汝カ如キ念佛ハ無間ノ業ト云テ念佛ヲ妨クル謗法邪見ノ人ヲ群賊ニ喩フルナリ

次ニ西方淨土ハモハラ一乗ノ土ニアラス觀經ノナカニ三品ノ機カノ土ニ生シテ小果ヲ證スルカユヘニ一乗ノ土ニアラスト此義マダ難ニアラサルナリ 二會中品說相六 初總非彼宗問難 此問難ハ第一問ニ三段アリ其中ノ第二難ニシテ觀經ノ中品ノ說相ハ分明ニ小乗ノ相ニシテ大乘ニハ非スカ・ル方便ノ權教ニヨリ宗ヲ立テ、一乗ト稱スルハ不當ナリト難ス是ハ第一難爾前方便ノ答ハ<sub>右六</sub>二行ニ終ル故ニ<sub>右六</sub>三行以下ニ此觀經說相非一乗ノ難ノ答アルハキ筈ナレトモ其答ヲ今爰ニ出スハ何ントナレハ觀經ノ說相ニ明カナルハ善導大師也故ニ善導ニ對スル難ヲ會スルニ四段ヲ分ナテ之ヲ明シ終リ此善導ト黒谷トノ會釋ノ中間ニ觀經ノ說相ニシテ會釋スレハ其理

顯レ易キニヨリ此義便ヲ量リテ此處ニ觀經ノ會釋ヲ舉ケタマヒタルモノナルヘシ此難勢具サニ上ニ出テタルカ如シ 二品ノ機トハ中三品ノ機類ノコトナリ

法華ニイハク十方佛土中唯有一乘法トイヘリ西方淨土ナンソ十方淨土ニモレンカルカユヘニ無量壽經ニ云ク一乗ヲ究竟シテ彼岸ニイタル<sub>已上</sub>淨土論ニイハク大乘善根界トイヘリ智論ニイハク一乗清淨無量壽世界<sub>已上</sub>コレヲノ現文一乗ノ土ニアラスヤ 一引ニ經ニ一論證

法華ハ科註一下<sub>下</sub>ノ文ナリ 無量壽經ハ淨土ノ菩薩ノ德ヲ嘆スル文ナリ 淨土論ハ大義門功德成就ノ文ナリ 智論ハ三十八<sub>下</sub>ノ文ナリ

タ・シ中三品ノ機カノ土ニ生シテノチニ四諦ノ法ヲキ、テ小乗ヲ讚スルコト本願ニヨルカ故テシハラク小界ヲ證スルナリ 三會中三

品機 是ハ中三品ハ小乘ノ機類ニテ四諦ノ法ヲ聞テ小果ヲ證ス  
 ルトハ阿羅漢ノ證ヲ得ルコトナリ是レ諸行往生ノ相ニテ小乘ノ機  
 ノ隨分ノ益ヲ得ルアリサマナリ本願ニヨルトハ本ニ約スレハ彌陀  
 因位ノ時小機ヲモモラサントノ本願ナリ末ニ約スレハ得生者ノ宿  
 習ノ本願ナリ是ハ過去ノ宿習ノ所樂ニヨリテ暫ク小果ヲ證スレト  
 モ遂ニハ回心向大スルカ故ニ大乘善根界ナルヲ妨ケサルナリ  
 例セハ華光如來ノ土ハ純ニ一乘ノ土ナリトイヘトモ本願ニヨリテ三  
 乘ノ法ヲトクカコトシ法華ノ二品ニイハク華光如來マタ三乘ヲモ  
 テ衆生ヲ教化ス舍利弗彼佛ノ出時ハ惡世ニアラストイヘトモ本願ヲ  
 モテノ故ニ三乘ノ法ヲ説ク上疏ニイハク淨土唯一ナレトモ願ニコダ  
 ヘテ三ヲトクトイヘリ一乘ノ土ニヲヒテ三乘ノ法ヲトクコト所難  
 不足ナリ 四引華光如來例 華光如來トハ舍利弗當來成佛ノ時ノ

佛名ナリ其華光如來ノ土ハ一乘大乘ノ土ナレトモ三乘ノ法ヲ説ク  
 コレ本願ニヨル此本願トハ舍利弗因位ノ時我成佛セハ三乘ノ機ニ  
 應シテ三乘ノ法ヲ説クヘシトノ本願ナリ 法華ノ二トハ科註二上  
 疏ノ文ナリ 疏ニイハクトハ文句五之一六ノ文ナリ文ノ意知ルヘ  
 シ  
 タツチテイハクカノ離垢世界ニハ三乘ノ法ノミアリテ機アルコトナ  
 シ西方淨土ニハ機法トモニアリ例同スヘカラストイカン 五示例難  
 不齊ニ 初難 離垢世界トハ科註二上七ニ出ル如ク華光如來ノ淨  
 土ノ名ナリ此難ハ華光世界ニハ法アリテ機ナシ西方淨土ハ機法ト  
 モニアリ例同スヘカラストノ意ナリ  
 答華光如來ノ土マタ機法トモニアリ經ノツキ下品ニイハク華光如  
 來十二劫ナスキテ堅滿菩薩ニ阿耨多羅三藐三菩提ヲサツケモロク

比丘ニ告テノタマハクコノ堅滿菩薩ツキニマサニ作佛スヘシ號シ  
テ華足安行多陀阿訶度阿羅訶三藐三佛陀トイハン<sup>巳</sup>上 二答二 初  
引文二 初經文 經ノツキ下トハ科註二上<sup>右</sup>ノ文ナリ堅滿菩薩ト  
ハ三乘ノ機ナリ此菩薩ニ當來成佛ノ記別ヲ授クルコトヲ説ケリ  
華足安行トハ佛名ナリ 多陀阿訶度阿羅訶三藐三佛陀トハ十號ノ  
中ノ如來ト應供ト等正覺ノ三號ヲ舉ケタルモノナリ  
立贊ニイハク三乘アリトイヘトモ菩薩ノ類オホキカユヘニ大寶トイ  
フ<sup>巳</sup>上二釋文 立贊ハ五<sup>九</sup>ノ文ナリ科註二上<sup>左</sup>華光如來出世ノ劫ノ  
名ヲハ大寶莊嚴ト名クルハ其國ノ中ニハ菩薩ヲ以テ大寶トスルカ  
故ニトアル經文ノ釋ナリ  
經ニ告諸比丘トイヒ釋ニ雖有二乘トイフアキラカニシリヌ華光如來  
ノ土ニ機法トモニコレアリタレカコレナアラソハン 二結成 上ニ

引キタル經釋ノ文ニ依レハ華光如來ノ土ニ機法トモニアリ引例不  
齊ト云ヘカラスト結成スル文ナリ  
涅槃經ニイハク一乘トイフハ名テ佛性トスコノ義ヲモテノ故ニワレ  
一切ノ衆生ニコト<sup>レ</sup>ク佛性アリト説ク一切衆生ニコト<sup>レ</sup>ク一乘  
アリ無明オホフヲ以テノ故ニ見ルコトナウルコトアタハス<sup>上</sup>然ラハ  
イカナル衆生アリテカ淨土ニ生シテマダ灰斷ノ情アラシ 六引涅槃  
經成 北本二十七<sup>紙</sup>ノ文ナリ行卷ニ御引用アリ是ハ一乘ハ佛性  
ノ異名ニシテ一切衆生悉有佛性トアレハ一切衆生ニ悉ク一乘ヲ  
具セリ無明ノ爲ニ覆ハレテ見ルコト能ハサレトモ成佛スルコト明  
カナリ故ニ何ナル衆生モ淨土ニ生シテ永ク小乘ノ果ニ止マルコト  
ナシ灰斷ノ情トハ小乘ノ涅槃ニシテ灰身滅智シテ一衆生斷滅スル  
ノ情見ノコトナリ

次ニ上人ノ選擇集ヲヒキテ謗法トイフコトレマタ所難トスルニタラス  
二會黑谷釋二一 初總非 是ヨリ此上右九ニ舉ケタル難ヲ會スルナ  
リ

選擇集ノ中ニ諸行往生ヲ明スコト其文一ニアラス 選擇集ノ未釋ニ  
ハクハシメ日想觀ヨリヲハリ雜想觀ニイタルマテツフサニ十二觀ヲ  
ヒキヲハリテタトヒ餘行ナシトイフトモアルヒハ多クソノ所堪ニ隨  
テ十三觀ヲ修シテ往生スルコトヲウヘシソノムチ經ニミエタリアヘ  
テ疑慮スル事ナカレツキシモニハシメ孝養父母ヨリヲハリ讀誦大乘  
勸進行者ニ至ルマテ散善ノ行コトククコレヲヒキテ往生ヲユル  
二別會四 初會讀誦雜行難二一 初引諸行往生文 是ヨリ下選擇  
集末紙九以下ノ文ヲ撮畧シテ引キタマヘリ是レ定散ノ諸行ヲ往生ノ  
因トスル文ナリ

讀誦大乘ヲ釋シテイハク願クハ西方ノ行者ヲノク其意樂ニ隨テア  
ルヒハ法華ヲ讀誦シテ以テ往生ノ業トシ或ハ華嚴ヲ讀誦シテ以テ往  
生ノ業トスカコレ即淨土宗ノ觀無量壽經ノコトナリ上 二引讀  
誦大乘文 是モ選擇集ノ文ナリ法華等ノ大乘經ヲ讀誦スル者ヲ  
シテ西方往生ヲ許スコト勿論ナリ

シハラク不堪ノ機ニ對シテヒトヘニ念佛ヲス、メンカダメニ捨閉等  
トイヘリシカリトイヘトモマタク不生不閉本願ニアラス故ニ捨閉等  
トイフナリ 二會捨閉闍左十 是ハ難 ヲ會ス定散ノ諸行ヲ修  
スルニ堪ヘサル機ニ對シテ易行ノ念佛ヲ勸メンカ爲ニ捨閉等ト云  
ヘリ シカリトイヘトモマタク等トハ生ノ字一本ノ如ク捨ノ字ニ  
作ルヲ可トス不捨不閉ハ本願ニアラストハ彌陀ノ本願ハ選擇攝取  
ナレハ所捨ハ諸行所取ハ念佛ナリ是レ佛ノ本願ニ望メテ餘行ヲ捨

閉關拋スヘシト申シタルモノナリ

オホヨソ淨土ノ三經ノ說相ヲ見ルニ壽經ノ三輩ノ中ニ念佛ト諸行ト  
雜スルコトヲトク觀經ニハ一行々々ニテノく九品往生ノムテヲ明  
ス阿彌陀經ニハ諸行ヲトカスタ、一日七日ノ執持名號ヲ以テ得生彼  
國トトクツキシモニ不可以少善根福德因緣得生 彼國トトク 三會  
廢立謗法難二 初出三經說相 是ハ<sub>左</sub>ノ難ヲ會ス 三經ノ說相  
ハ知ルヘシ

カクノコトク三經ノ說相ニヨリ廢立助正傍正ノ三義ヲ立スシカモ廢  
立ノ一義ヲ以テ謗法トイハ、阿彌陀經ノ少善根不生ノ文イカンソ謗  
法トイハン十方恒沙ノ諸佛ノ證誠タ、カキリテ念佛ニアリ念佛ハマ  
サシク彌陀如來ノ本願ノ行ナルカユヘニ行シヤスク修シヤスシ故  
ニ機ノ堪不堪ヲ論セスヒトヘニ念佛往生ナス、ムルナリ 一ニ示廢

助傍義 此三義ハ選擇集本<sub>二十</sub>以下委シキ釋アリ諸行ハ廢ノ爲ニ  
說キ念佛ハ立ノ爲ニ說ク念佛ノ正業ヲ助成センカ爲ニ諸行ノ助業  
ヲ說ク又念佛ヲ以テ正トシ諸行ヲ以テ傍トス此三義ノ中善導ノ正  
意ハ廢立ノ一義ニアリ而モ廢立ノ一義ヲ以テ謗法トイハ、阿彌陀  
經ノ少善根不生ノ文ヲ謗法ト云ヘキヤ十方ノ諸佛ハ念佛ノ一行ヲ  
證誠シタマフ是レ彌陀ノ本願ナルカ故ナリ爰ヲ以テ機ノ堪不堪ヲ  
論セス偏ニ念佛ヲ勸ム何ソ謗法ト云ハンヤト返難スル意ナリ  
ツキニ歷劫迂廻ノ行ノコトオホヨソ淨土宗ノ大綱ハ聖道淨土ノ二門  
ヲ立テ、聖道門ナステ、淨土門ニ歸スルヲ本意トスソノ聖道門トイ  
フハ此土ノ入聖得果ナルカ故ニ難行難證ナリ故ニ難行道ト名ク淨土  
門ハ彼土ノ入聖得果ナルカユヘニ易行易往ナリ故ニ易行道ト名ク  
四會歷劫迂廻難五 初明淨土宗大綱 是ハ<sub>左</sub>ノ難ヲ會ス選擇集

教相章ニ安樂集ニ依リテ明シタマフ化卷御自釋六經合セ見ルヘシ  
 十住毘婆沙論ニイハク菩薩阿毗跋致ヲモトムルニ二種ノ道アリ一ニ  
 ハ難行道二ニハ易行道難行道トイフハ五濁ノ世無佛ノ時ニ於テ阿毘  
 跋致ヲ求ルヲ難トス五タトヘハ陸路ノ歩行ハ即苦キカ如シ易行道ト  
 イフハイハクタ、信佛ノ因縁ヲ以テ淨土ニ生セント願スレハ佛ノ願  
 カニ乘シテ即彼清淨ノ土ニ往生スルコトナウ佛力住持シテ即大乘正  
 定ノ聚ニイル正定ハ即ナコレ阿毘跋致也タトヘハ水路ノ乗船ハ即タ  
 ノシキカ如シ上 一三ニ十住論二道 是ハ論註上初ノ文ナレトモ  
 十住論ノ意ヲ述ヘタマフカ故ニ其本ニ從ヘテ十住論ニイハクト標  
 ス選擇集本四ニ之ヲ引キテアリ  
 シカルニ眞言ニハ顯教三劫成佛ト談シ密教ニハ即身成佛トイフ天台  
 ニハ三權歷劫ノ行モ一實速疾頓證ト判スルカユヘニ顯大權大ヲ以テ

難證ノ本トス 三ニ顯大權大釋 是ハ選擇集ノ顯大權大ノ相ヲ釋  
 ス 眞言ニハ等トハ顯密二教ノコトハ顯密二教論ニ委シク出ル五  
 輪九字秘釋四顯教經三劫成佛密教一生證佛道トアリ 天台ニハ  
 等トハ モノ字一本ノ如クナキヲ聞ヘ易シトス四教ノ中藏通別ノ  
 三ハ權教ニシテ歷劫ノ修行アリ第四ノ圓教ノ一ハ實教ニシテ速疾  
 頓證ト判スルコトナリ法華立義三之一三圓教肉身於一生中有超  
 登十地之義餘教肉身一生之中不登十地トアリ然ルニ今ハ決疑  
 鈔一ハニ倣ヒタマフ是レ顯教中ノ權教ハ歷劫成佛ヲ談スルカ故ニ  
 難證ノ根本ナリ

眞言法華等ハ速疾頓悟ノ教ナリトイヘトモシカモ斷證ナキニアラス  
 淨土ハシカラス煩惱ヲ斷セスシテ直ニ報土ニ生ス得生已後カノ土ニ  
 ナヒテ五惡趣ヲキル 四釋存密大實大三 初明斷證有無 是ハ元



祖ノ大經釋漢燈一紙天台眞言皆名頓教然彼斷惑證理故猶是漸教也明未斷惑凡夫直出過三界長夜者偏是此教故以此教爲頓中之頓也トアル文ノ意ニ依リタマフ此眞言天台ニモ速疾成佛ヲ談スレトモ斷惑證理ノ階級アリト云コト步船鈔ニ出テタルカ如ク天台ニハ六卽ノ位次アリ眞言ニハ三生成佛ヲ明セリ淨土門ノ不斷煩惱得涅槃ニハ及ハサルナリ

大經ニ云ク必ス超絶シテスツルコトヲエテ安樂國ニ往生スレハヨコサマニ五惡趣ヲキリテ惡趣自然ニトツ道ニノホルニ窮極ナシ巳上二引大經文此文安樂集下八漢語燈一紙ニハ當益トシテ引キタマフ今亦然リ信卷及ヒ銘文ニハ經意ヲ探リテ之ヲ現益トシタマヘリ

故ニ斷證ヲカラス淨土ノ易行ニ對シテ難易ノ二道ヲ分別センカタメ

ニハシメニ歷劫迂廻ノ行ヲアケテ眞言法華等ヲ準知應存トイフナリ顯大權大等ノ歷劫ノコトクコレヲ準スルニアラス 二釋準知應存是ハ右ノ難ニ舉ケタル選擇集ニ初ニハ顯大ヲ引テ歷劫迂廻ノ行トシ後ニハコレニ準シテコレヲ思フニ密大及ヒ實大ヲ存スヘシトアルヲ法華ヲ歷劫迂廻ノ行ニ準スル釋ニテ謗法ナリト云ヘルヲ會スル一段ナリ此意ハ天台眞言ヲハ顯大權大ノ歷劫迂廻ノ教ニ準スルニ非ス難易二道ヲ分別シテ歷劫迂廻ノ行ヲ舉テ難行ノ相ヲ示シ天台等モ聖道門ノ中ニ攝スルコトヲ準知令ムルト云コトナリ此準知應存ト云ハモト西河ハ三車家ナレハ別ニ實大密大ヲ存セス唯權大顯大ヲ指スノミ然ルニ黑谷ノ時代ニハ法相三論ノ權大アリ天台眞言ノ實大密大アリ之ニ準シテ之ヲ思フニトハ西河ノ顯大權大カ聖道門ナレハ元祖時代ノ實大密大モ同シク聖道門ノ中ニ攝シ

テ之ヲ存スヘシト云意ナリ日徒ハ選擇集ヲ見ルコト麤漫ニシテ輕  
 卒ニ難破スレトモ的中セスト云意ナリ然ルニ此會釋ハ一住相對門  
 ニシテ天台眞言ヲ頓教ト許ス義ナリ若シ絶對門ニ約セハ上ニ引キ  
 タル大經釋ノ如ク天台眞言モ斷惑證理ノ邊ヨリハ漸教ニ攝スルナ  
 リ

難易ノ二道ヲタツルコトハ十住毘婆娑論ニヨルナリ彼論ノコ、ロハ  
 得道ノ遲速ヲハ論セス總シテ此土ノ入聖得果ノ行ヲ難行道ト名ク故  
 ニ眞言佛心天台等ヲコトクミナ難行道ニ攝スルナリモシ法華ヲ  
 難行道ニ攝スルヲモテ謗法トイハ、天台大師ヲモ謗法ノヒト、イ  
 フヘキヤ 五引ニ道攝諸宗三 初引十住論難質 文ノ意知ルヘシ  
 然ルニ大師法華三昧ヲエテシカモ臨終ニヲヨヒテ法華經ヲ手ニトリ  
 テイハクニノ妙法華ハ本迹二門ニシテ其理深遠ナリトカタクイリカ

タシシハラクナイテ論セストツキニ觀經ヲ手ニトリテ即西方ニマウ  
 テ、佛ニアフテ佛ニアフテサトリヲヒラカントイヘリカクノユトク  
 ノ現文ニ難易ノ義イヨクアラハレタリ 二引天台證難行 是ハ  
 天台大師別傳ノ文ナリ カクノユトクノ現文等トハ存師ノ加ヘタ  
 マヘルナリ

法華ヲ信センモノハ餘法ヲソシリ他人ノトカヲトクヘカラス法華ヲ  
 信シテ餘法ヲソシリ他人ノトカヲトクナラハ孝經ヲサ、ケオヤノカ  
 シラヲウツカ如シ 三誠謗法引經說三 初正誠 孝經ヲサ、ケ  
 オヤノカシラヲウツトハ法華文句三之三六十八如人善讚孝順而打擲  
 父母トアリ

法華安樂行品ニイハク如來ノ滅後末法ノナカニヲヒテコノ經ヲトカント  
 欲セハ安樂行ニ住スヘシモシクナニ宣說シモシ經ヲヨマントキ子カ

ヒテ他人ヲヨヒ經典ノトカナトカサレマダ諸餘ノ法師ヲ輕慢セサレ  
 他人ノ好惡長短ヲトカサレ已上 二引經二 初法華經三 初安樂行  
 品文二初正引二初長行文 科註五<sub>ル</sub>ノ文ナリ文句八之三<sub>十</sub>釋アリ  
 オナシキ經ノ偈ノ文ニイハクモシ此經ヲトカント欲セハマサニ嫉恚  
 慢誑誑邪偽ノ心ヲステ、ツ子ニ質直ノ行ヲ修スヘシ人ヲ輕蔑セサレ  
 又法ヲ戲論セサレ他ヲ疑悔シテナンナハ佛ヲエストイハシメサレ已  
 上 二偈頌文 文ハ知ルヘシ  
 カクノコトキノ經文ヲミナカラ諸經論ヲソシリヒトヲ輕蔑シアマサ  
 ヘ念佛無間ノ業トイフアニ嫉恚慢誑誑邪偽ノ心ニアラスヤコレ即シ  
 カシナカラ阿鼻ノ罪業ヲマテク歟 二述成 日徒ノ謗罪誠ムルナリ  
 ナカンツク法華ハコレ多聞強識ノ人ノタメニ是ヲ說無者ノモノ、タ  
 メニトクヘカラスト ミエタリ 二譬喩品文二 初述意 次下ノ二

文ヲ引ントシテ先經意ヲ述ヘタマヘリ

法華<sup>長者</sup> 二イハク無智ノ人ノ中ニシテ此經ヲトクユトナカレモシ利  
 根智慧明了多聞強識アリテ佛道ヲモトメンモノニハカクノコトキノ  
 人ニハ即タメニトクヘシ已上 二正引 初長者偈文 科註二上<sub>十五</sub>  
 ノ文ナリ

又イハク此法華經ハ深智ノタメニトク淺識コレヲキ、テ迷惑シテ解  
 セス已上 二同偈文 次前<sub>七</sub>ノ文ナリ

又イハク諸佛如來ノミコトハニ虛妄ナシ 二方便品文 科註一下<sub>五</sub>  
 ノ文ナリ

シカルニ一文ヲ通セサル大俗ノ黑闇ヲモワキマヘサル男女盲目等ニ  
 對シテ經ノ正理ヲシラスヲノレカ惡見ノ心ニマカセテホシイマ、ニ  
 コレヲトクコレニヨリテ諸宗ヲソシルヲ要トス 三結誠 日徒ノ惡

見テ以テ諸宗ヲ謗ルヲ總結シテ誠シムルナリ

涅槃經ニイハク惡罵等ニオイテ怖懼ナシ惡知識ニオイテ畏懼ノ心ヲ生スナニテ以テノ故ニ此惡罵等ハタ、ヨク身ヲ壞シテコ、ロヲ壞スルコトアタハス惡知識トイフハフタツトモニ壞スルカユヘニ已上

二涅槃經 罵ノ字經本象ニ作ルヲ善シトス惡知識トハ日徒ノ謗法ノ惡見ナリ

ツキニ爾前ノ經所依ノ論ヲハモテ井ルヘカラストイフ義コレマタハナハタ自由ナリナンチカ所立コトク諸經諸論ニソムクニヨリテ術計ヲウシナフユヘナリ 二會爾前方便難四 初破背諸經論是

ハ右ニ舉ケタル三難ノ中上來廣ク正所明タル念佛無間ノ難ヲ通シ已リテ是ヨリ餘ノ二難ヲ會シタマフ 自由ノ言ハ改邪鈔末ニ自由ノ妄說トアリ 術計トハ彼ノ邪義ヲ成立スル方法ナリ

爾前ノ教ノ得益ニイタリテハカミニナンチカ信スルトコロノ法華ト無量義經ト二經ヲヒキテ文證トスナンソツツヲハシクカサチテコノ義ヲ論セン 二證爾前得益 上ニ引ク法華トハ此上右譬喩品ノ文ナリ無量義經トハ右ニ引キタル文ナリ

タトヒ爾前ノ教ノ得益ナシトイフトモ觀經ノ得益ニオイテハ爾前ノ教ニ準スヘカラストカレハ此土ノ入聖得益ヲアカスコレハカノ土ノ往生ノ益ヲトクカレハ難行コレハ易行カレハ自力コレハ他力所行ステニコトナリ得益ナンソオナシカラシ 三出觀經得益 法華ト觀經トハ此土入聖ト他土得證ノ差別アリ難行自力ト易行他力ノ不同アリ教門異ナルカ故ニ利益亦同シカラスト故ニ觀經ノ得益ヲハ爾前ノ教ニ準同スヘカラスト云意ナリ

ナカンツクニ觀經ハ法華ト同時ノ說ナリ爾前ノ教ニ攝スヘカラスト觀

經法華同時トイフコト善見論トイヒ涅槃經ノ文トイヒ分明ナリタレ  
カコレヲウタカハン 四指ニ經同時 此ニ經同時ノ説ト云コトハ  
此下卷<sup>紙五</sup>以下ニ問答アリテ委シク之ヲ明セリ善見論ハ下卷<sup>紙七</sup>ニ引  
キ涅槃經ハ同シク<sup>紙七</sup>以下ニ之ヲ引ケリ

ツキニ即往安樂世界ノ阿彌陀ハ西方ノ阿彌陀ニハアラス己心ノ阿彌  
陀トイフコレマダ不足言ナリ 三反破己心彌陀ニ 初總破彼所立  
是ハ此上<sup>紙七</sup>ニ舉ルトコロノ難ヲ通スルナリ

己心ノ佛ハ不生不滅無去無來也アニ此命終ニヲヒテ即安樂世界ニユ  
ク<sup>乃</sup>生蓮華中等トイハンヤ 一釋己心彌陀ニ 初正釋 己心ノ阿彌  
陀トハ法身ノ理佛ナリ是レ不生不滅無去無來ナリ豈藥王品ニ於  
レ此命終即往安樂世界阿彌陀佛所生蓮華中寶座上ト説クノ理アラ  
ンヤ是レ娑婆ト淨土ト對望シテ説ケリ己心ノ彌陀ニ非サルコト明

カナリ

心地觀經ニ云ク法身ノ體ハモロクノ衆生ニアマチク萬德凝然トシ  
テ性常住也生セス滅セス去來ナク一ナラス異ナラス斷常ニアラスト  
已上 二引經 心地觀經ハ三<sup>九</sup>ノ文ナリ是レ己心ノ彌陀ト同意ノ文  
ナリ

シカルニコ、ニヲヒテ命終シテ即阿彌陀佛ノミモトニユイテ蓮華ノ  
ウチノ寶座ノ上ニ生ストイヘリコノ文ノ始終ヲミルニ往生ノ二字ヲ  
トクナンソ己心ノ彌陀トイハン 三引藥王品結 藥王品ノ文ニ即  
往安樂ト云ヒ生蓮華中ト往生ノ二字アリ捨此往彼蓮華化生ノ西方  
往生ナルコト明カ也何ソ曲ケテ己心ノ彌陀ト云ハンヤト示シタマ  
フナリ尙此藥王品ノ彌陀ニ就テ決智鈔本<sup>六</sup>問答アリ披キ見ルヘシ

### 法華問答略述上終

## 法華問答略述下

難シテイハク和尚上人兩僧ノ解釋謗法ニアラストユレヲ會ストイヘ  
トモイマダツノ難ヲノカレス 一重通兩師謗法難二 初問三 初  
總難兩師 是ハ此上法<sub>註</sub>以下兩師ノ釋謗法ニ非スト會釋セシニ  
對シテ其會釋未ダ難ヲ遁レ難シト重難セシヲ會スル一段ナリ  
選擇集ノ第十一ノ章ニ雜善ニ約對シテ讚嘆念佛ノ文ト標シテ和尚ノ  
若念佛者ヨリシモ生諸佛家ニイタル已來ハマサシク念佛三昧ノ功能  
超絶シテ實ニ雜善ヲモテ比類トスルニアラサルコトヲ顯ハススナハ  
ナソノイツ、アリ<sub>乃</sub>モシ念佛スルモノハスナハナコレ人中ノ好人ナ  
リ人中ノ好妙人ナリノ釋文ヲヒキアハセテ私ニ曰クノシタニコノ經  
ニステニ定散ノ諸善ナラヒニ念佛ノ行ヲトキテシカモソノナカニヲ

ヒテヒトリ念佛ヲ標シテ芬陀利ニタトフ雜善ニ待スルニアラスハイ  
 カンカヨク念佛ノ功ノ餘善諸行ニコエタルコトヲアラハサンシカレ  
 ハ即念佛スルモノハ即是人中ノ好人トイフハコレ惡ニ待シテシカモ  
 美ルトコロナリ人中ノ妙好人トイフハコレ麤惡ニ待シテシカモ稱ス  
 ルトコロナリ也 二舉兩師釋 是ハ選擇集末五紙約對雜善章ノ  
 文ナリ 此一章ノ意ハ觀經ノ流通ニ念佛行者ヲ讚嘆シテ是人中芬  
 陀利華ト善導大師此文ニ依リテ五種ノ嘉譽ヲタマフ黒谷此文  
 ナ釋シテ好ハ惡ニ待シ妙好ハ麤惡ニ待シ上々ハ下々ニ待シ稀有ハ  
 常有ニ待シ最勝ハ最劣ニ待スル等ト示シタマヘリ  
 念佛ヲ讚センカタメニ諸善ヲコトク雜行トナツケテアマサヘ惡  
 ニ待シテシカモ實トスルトコロナリ麤惡ニ待シテシカモ稱スルトコ  
 ロナリ

法華ハコレ一大事ノ因緣諸佛出世ノ本懷カキリテコノ經ニアリシカ  
 ルニ法華ヲ雜行ノ中ニ接シテ惡ニ待シ麤惡等ニ待ストイフコレ即謗  
 法ヲノカレカタシイカン 三正難兩師 日徒善導元祖ノ釋ヲ見テ  
 諸佛出世ノ本懷タル法華ヲ雜行ノ中ニ攝シ而モ念佛ヲ妙好トシ法  
 華ヲ麤惡ト云フ爭テカ謗法罪ヲ免ルコトヲ得ンヤト云難勢ナリ  
 答此難コトク非ナリ文ノ始終ヲヨクコレナシルヘシ念佛三昧功  
 德起絶トハ念佛ハコレ本願ノ行ナルカユヘニ諸善ニ超過シテ實非雜  
 善得爲比類トイフコトヲアラハサンカタメナリコレ則勝劣ノ義ナリ  
 二答二 初會善導釋二 初釋功能超絶 是ハ法々相對ノ釋ニテ  
 諸行ハ非本願ナルカ故ニ劣ナリ念佛ハ選擇本願ナルカ故ニ勝ナリ  
 ト念佛諸善相對シテ勝劣ヲ顯ス釋ニテ念佛ハ善諸行ハ惡トスル善  
 惡相對ノ釋ニ非スト通釋シタマヘリ

故ニ念佛ノ行者ヲ芬陀利等ニタトフ芬陀利華ハ人中ノ華ノ中ノスク  
 レタルカユヘニコレヲ人中ノ妙好華等トナツク故ニコノ華ヲ以テ念  
 佛ノモノニコレヲタトフ人中ノ好人妙好人稀有人等トイフナリ 二  
 釋芬陀利華 是ハ機々相對ノ釋ニテ諸行ノ機ニ對シテ念佛ノ行  
 人ヲ芬陀利華ニ喩フ若念佛者トアル者ハ人者ナリ芬陀利ヲ法ニ喩  
 フルニ非ス法ト法トヲ相對セサレハ法華ノ法ヲ誹謗スルニ非スト  
 云意ナリ

是レ則チ念佛ノ機ト諸行ノ機ト相對シテ念佛ノ機ヲ好人妙好人トナ  
 ツク故ニ字訓ニ待センカタメニ待惡待麤惡トイフナリ 一會黑谷  
 釋三 初約機々相對 元祖然レハ則チ念佛スル者ハト標シテ人  
 中ノ好人ハ惡ニ待シテ美ル所ナリト念佛ノ機ト諸行ノ機ト相對シ  
 テ釋スレトモ是ハ字訓ニ就テ好惡相對セシマテナリ法華ノ行者ヲ

惡人ナリト云意ニハ非ス惡ノ字善ニ對スルニ非ス好ニ對スルナリ  
 善惡相對ノ惡ヨリモ輕キナリ

法ト法ト相待セハ惡ノ言ヲナスヘカラス故ニカミニハ法ト法トヲ相  
 待シテ勝劣ヲ判スルトキハ實非雜善得爲比類トイヒテ惡ノ字ヲ置ス  
 ツキニカミニイハク雜善ニ待スルニアラスハイカンカヨク念佛ノ功  
 ノ餘善諸行ニコエタルユトヲアラハサントツキニシモノ後序ニイハク  
 ソレスミヤカニ生死ヲハナレントオモハ。二種ノ勝法ノ中ニシハラ  
 ク聖道門ヲサシオキテエラヒテ淨土門ニイレ取要ステニ二種ノ勝法  
 トイフイカンカ惡トナツクル 二約法々相對 此法々相對スルト  
 キハ勝劣ヲ以テ判スレトモ善惡相對シテ諸行ヲ惡ト名クルコトナ  
 シ此義ヲ示スニ付キ三文ヲ引キタマフ一ニ實非雜善得爲比類ノ文  
 コレハ散善義ノ文ニテ選擇集ニ引用ノ文ナリ此文ニ惡ノ字ナシニ



ニツキニカミニイハクトハ選擇集私釋ノ文ニテ此書<sup>左初</sup>ニ引キタル  
 文ナリ此文ニ餘善諸行トアリ三ニツキニシモノ後序ニイハクトハ  
 選擇集末<sup>中</sup>總結ノ文ナリ此二種ノ勝トハ念佛ト諸行トナリ スデ  
 ニ二種ノ勝法トイフイカンカ惡トナツクルトハ反難シタマフ言ナ  
 リ

シカノミナラス選擇集ノコ、ロ所々ニ諸行往生ヲアカスモシナンケ  
 カ所難ノコトク諸行ヲ惡ト名ケハ諸行往生ノムチヲアカスヘカラス  
 上人イカンカ善惡ノ二事ニマヨヒテ諸行ヲ惡トイハン亦アニ往生ヲ  
 ユルサン 三明諸行往生ニ 初立理 選擇集一部ニ亘リ所々ニ諸  
 行往生ヲ明ス次下ニ文ヲ引クカ如シ若シ諸行ヲ惡法トセハ如何ソ  
 諸行往生ヲ許スヘキ理アラシヤ

次ニ下ニ觀音授記經ヲヒキテ諸行往生ノ支證トス 二引證一 初授

記經文 選擇集末<sup>左八</sup>ニ引キテアリ

付屬ノ章ニイタリテハシメ日觀ヨリナハリ下品下生ニイタルマテ定  
 散ニ善コトククミナ往生ヲアカシテコレスナハテ淨土宗ノ觀無量  
 壽經ノコ、ロト結ス 二付屬章文 選擇集末<sup>紙九</sup>以下ノ取意ナリ  
 カクノコトク諸行往生ヲユルシナカラアニ諸行ヲ惡トイハンヤ所難  
 トスルニ不足 三結破 知ルヘシ

問曰觀經ト法華ト同時ノ説トイフコト經文ニソムキ道理ニ違ス 三  
 二經同時問答ニ 初問三 初總難 此問ノ起ル由來ハ上卷<sup>四十五</sup>觀經  
 ハ法華ト同時ノ説ナリ<sup>乃</sup>善見論トイヒ涅槃經ノ文トイヒ分明ナリ  
 トアルヲ承ケテ難シタルモノニテ此二經同時ノ説ト云コト違經違  
 理ノ失アリト總シテ難シ來レリ

マツ經文ニソムクトイフハ阿闍世逆罪ヲオコスト提婆兩行等ノ教

ニヨルカユヘニ觀經ニ隨順調達惡友之教トトクシカルニ爾前ノ經ノ  
 中ニ提婆入滅トトク若シシカラハ法華以前ニ入滅セシムル提婆法華  
 ナトクトキヨミカヘリテ阿闍世ニス、メテ逆罪ヲツクラシムヘキヤ  
是ヒト 一別難一 初背經文難一 初觀經報恩經相違難 爾前ノ經  
 ノ中ニ提婆入滅トトクトハ次下左六答ノ文ニ引ク報恩經四下ノ説ナ  
 リ餘ノ文知リ易シ

次ニ觀經ニハ阿闍世太子トトク經ニ云爾時王舍大城有一太子名阿闍  
 世ト上法華ノ同聞衆ニハ阿闍世王トトク經ニ云韋提希子阿闍世王  
 ト上此二經ノ文ヲカンカフルニ太子ハサキ王ハノケナリコノ義ニ  
 ヨルニ觀經ヲ法華同時ノ説トイフヘカラス是ニツ 二太子世王相違難  
 法華ノ同聞衆トハ科註一上紙十ナリ是レ觀經ニハ太子トイヒ法華ニ  
 ハ王トアリ太子ハ前ニシテ王位ハ後ナレハ二經ノ説時前後ノ違ア

ルコト明カナリト云難ナリ

シカルニ法華ハコレ正直捨方便ノ教ナリカクノコトキノ深法ヲキ、  
 テイカテカ惡逆ヲオコシ沙門ヲ罵父ヲコロシ母ヲ害セント欲センコ  
 ノ義ヲ以シリ又阿闍世法華前ニ逆罪ヲオカストイヘトモノナニ懺悔  
 セシメテツミヲ滅スルコトヲエテ法華ノ座ニツラナルヘシ 一違  
 道理難 正直捨方便ノ言ハ科註一下五下ニ出ル法華ノ會座ニ列ナ  
 リ甚深ノ法ヲ聞ケハ得益スヘシ何ソ逆害ヲ起サン此道理ヨリ見レ  
 ハ阿闍世法華以前ニテ逆罪ヲ犯セトモ後ニ懺悔滅罪シテ法華ノ會  
 座ニ來リシナルヘシト云意ナリ

故ニシリヌ觀經ハ法華以前ノ説ナリ法華同時トトクコト文理トモニ  
 ソムクハナハタ依用シカタシイカン 三結難 文ノ如シ  
 答タトヒ報恩經ニ提婆入滅ストトクトイヘトモナンチカ所立ノコト

クンハ爾前ノ教ハ方便トイヒテヒキテ提婆カ入滅ノ支證トセンヤ  
 二答五 初會背經文難二 初會提婆入滅二 初遮爾前經汝ハ  
 爾前ノ經ヲ方便トシテ用ヒス故ニ問者ノ所立ニ准シテ其證ヲ成セ  
 スト遮遣シタマフ

涅槃經ハナンナカ信スルトコロノ經ナリカノ觀經ハ法華同時ニトク  
 トミエタリコレナアラソフコトナカレ 一引涅槃經三 初總示  
 汝カ信スル所ノ涅槃經ヲ引テ二經同時ノ義ヲ示スヘシト下ニ經文  
 ナ引キタマフ

涅槃三十三<sup>迦葉</sup>ニイハク善見太子父ノ喪スルヲ見テ正ニ悔心  
 ナ生ス兩行大臣又種々ノ惡邪ノ法ヲモテシカモタメニコレヲトク大  
 王一切ノ業行スヘテツミアルコトナシナンカユヘソイマ悔心ヲ生ス  
 ルヤト耆婆又マウサク大王正ニシルヘシカクノコトキノ業罪ニ重ヲ

カチタリ一ツニハ父ノ王ヲ殺害シニハ須陀洹ヲコロスカクノコト  
 キノツミハ佛ヲノソキテサラニ除滅スルモノナケン善見王ノタマハ  
 ク如來清淨ニシテ穢濁アルコトナシソレヲ罪人イカンカ見ルコトヲ  
 エン善男子ワレコノコトナシル故ニ阿難ニツク三月ヲスキテハリテ  
 我レ正ニ涅槃スヘシ善見キ、ヲハリテ則チワカトコロニキタルワレ  
 タメニ法ヲトクニ重罪ウスクナルコトナエテ無根ノ信ヲウル已上

二正引二 初迦葉品 此文ハ信卷末ニ引テアリ北本三十三<sup>三</sup>ノ  
 文ナリ阿闍世父ヲ幽閉シテ三七日死セス母ノ密カニ飲食ヲ進ムル  
 ナ知リ母ヲ深宮ニ閉置ス此ニ父王飲食ヲ絶テ七日ニシテ死セリ太  
 子父ノ死スルヲ見テ正サニ悔心ヲ生ス佛此事ヲ知リタマヒ阿難ニ  
 告テ云ク我三月ヲ過レハ當ニ涅槃スヘシ太子聞キテ佛所ニイタリ  
 法ヲ聞キ無根ノ信ヲ得タリト云文ナリ カクノコトキノ業ハ罪二

重ナカチタリ一ニハ父ノ王ヲ殺害シ二ニハ須陀洹ヲコロストハ須陀洹ト云ハ小乘四果ノ中初果ノコトナリ此罪一重トハ義門ヲ以テ分ナテ一トス二人ヲ殺スニ非ス何ントナレハ父王ハ小乘ノ機ニシテ先ツ須陀洹ヲ得次ニ阿那含ヲ得タリ今初二從ヘテ須陀洹ト云フ故ニ父王ヲ殺セハ同時ニ須陀洹ヲ殺シタルコトニナルナリ 無根ノ信トハ止觀輔行二之二十三五無根信者小乘即是初果位也大乘即是別住圓信トアリ同六之三七大經闍王云梅檀樹者即是我心無根信也言無根者我初不知恭敬如來今生信故曰無根トアリ此無根ノ信ヲハ今家八本時五根未立今遂得信故曰無根トアリ此無根ノ信ヲハ今家ニハ他力信心ノコト、シタマヘリ衆生貪瞋煩惱中ニ眞實ノ信心ヲ發起スルカ故ナリ

同經ノ二十品梵行ニ云阿闍世王若シ耆婆ノ語ニ隨順セスハ來月七日ニ

必定シテ命終シテ阿鼻地獄ニ墮センコトニユヘニ近因ハ善友ニシクハナシ阿闍世王マダ前路ニチヒテ舍婆提毘流離フチニ乘シテウミニイリ火ニアフテシカモ死ス瞿迦離比丘ハ生身ニ地ニイリ阿鼻ニイタル須那刹多ハ種々ノ惡ヲツクリシカモ佛所ニイタリテ衆罪滅スルコトヲウルトキクコノ語ヲキ、チハリテ耆婆ニ語テイハクワレイマカクノコトキニ言ヲ聞トイヘトモチホイマダ審定セスナンチキタレ耆婆ワレナンチトオナシク象ニノワント欲スタトヒワレマサニ阿鼻地獄ニ人トモコヒチカハクハ汝投持シテワレナシテ墮セシメサレトナニチ以テノ故ニワレムカシカツテキ、キ道ヲウルヒト地獄ニイラスト已上 二梵行品 信卷末三ニ引テアリ北本二十八紙ノ文ナリ 近因ハ得道ノ近因ナリ善友トハ正シクハ耆婆ヲ指ス 舍婆提毘瑠璃王ノコトハ法句譬喻經ニ出ル瞿迦離ノコトハ大論十三三ニ出ル提婆ノ弟

子ナリ此二人ハ惡ヲ作りテ墮獄セシナリ 須那刹多ノコトハ會疏  
十七<sup>ニ</sup>出テタリ此人ハ惡ヲ作りシカトモ懺悔滅罪セリ カクノ  
コトキニ言トハ造罪墮獄ノ人ト懺悔滅罪ノ人ナリ 審定セストハ  
我ハ瞿迦離ノ如ク墮獄スヘキヤ須那刹那ノ如ク滅罪スヘキヤ審カ  
ニ決定セストナリ 投ノ字捉ニ作ルヲ善シトス  
コノ勸文ノ如ク阿闍世王法華ノ序分ニ同聞衆ニツラナルトイヘトモ  
イマタ正説ヲキカス故ニ逆罪ヲツクル逆罪已後佛所ニ詣セス涅槃ノ  
時分ニイダリテ闍王者婆カス、メテ佛所ニ詣スルニヨリテ佛タメニ  
法ヲトク闍王法ヲキ、テ滅罪得益スト見ユ 三勸文ニ 初成立自  
義勸文トハ勸考シ出シタル文ト云コトニテ過三月ノ文ト來月七  
日ノ文ヲ指ス此ニ一文何レモ涅槃經ノ説ニテ阿闍世ノ逆害ニ關スル  
言ナリ阿闍世法華ノ序分ニアリテ同聞衆ニ列ナルトイヘトモ正宗

分ノ説ヲ聞カス故ニ逆罪ヲ造レリ逆罪已後佛所ニ詣セス涅槃ニ入  
ラントスル三月前ニ至リテ耆婆ノ勸メニヨリ闍王滅罪得益セルナ  
リ是レ法華ト觀經ト同時ノ説ナルコト明カナリ

モシナンナカ所説ノコトク闍王ノ逆罪法華以前ナラハ逆罪以後法華  
ノ列座ニ深法ヲキ、テノナニナニノ失咎アリテ阿鼻ニ墮スヘキヤモ  
シ法華ノ座ニツラナリテ正説ヲキクトイヘトモナホ以前ノ逆罪餘殃  
ノコリテ阿鼻ニ墮スヘシトイフハ一切衆生皆入佛道ノ文違スルカユ  
ヘニシリヌ觀經ハ法華同時ノ説ナリトツレ 一破彼所見 彼ノ所立  
ノ如ク阿闍世法華以前逆罪ヲ犯セトモ懺悔滅罪シテ法華ノ座ニ列  
ナルト云ハ、法華ノ深法ヲ聞キテ後何ノ咎アリテ涅槃ノ時阿鼻ニ  
墮スヘキヤ 若シ轉計シテ法華ノ座ニ列ナリテ正説ヲ聞クトイヘ  
トモ以前ノ逆罪ノ餘殘アリテ阿鼻ニ墮スト云ハ、一切衆生皆入佛

道ノ文ニ違スルト難ス此經文ハ科註一三ニ出ルナリ カルカユヘニシリヌ等トハ知ルヘシ

ツキニ觀經ニハ太子トトク法華ニハ王トトク此義ヲ以テ觀經ハ法華同時ノ說ニアラストコノ難マダ不足言ナリ阿闍世ヲ太子トトキ王トトクコト義ニシタカヒ言便ニヨリテ王太子ノ前後不定也 一會太子世王違二 初總破所難 觀經ニモ太子トモ王トモアリ涅槃經亦然リ是ハ父母ニ對スル時ハ太子ト云ヒ守門者等ヨリハ大王ト云フ義ニ從ヒ言便ニ從フモノニテ一定セサルナリ

觀經ニ云有一太子名阿闍世ツキシモニイハク時守門人自言大王慎莫害母トイヘリ阿闍世父ノ王ヲ禁閉ストイヘトモナテ存在セリ隨テイマタクヲ井ニノボラスシカリトイヘトモ守門ノモノハ耆婆トトモニオナシク大王トイフ 二別引諸文ニ 初觀經文 自下觀經ノ二文

涅槃經ノ三文善見論ノ一文ト合シテ六文ヲ引テ太子ト王ト前後不定ナルコトヲ示ス

涅槃經ノ三十三ニイハクモロノ守人則太子ニツケテマツル已上ツキ下モニイハク耆婆ミツカラマウサク アリシコノカタツミシカモオモシトイヘトモイマダ女人ニヲヨハスイハンヤ所生ノ母ヲヤ善見太子コノ語ヲキ、ヲハリテ耆婆ノタメノユヘニ即放捨ストイヘリ亦イハク善見太子父ノ喪スルヲ見ヲハリテマサニ悔心ヲ生ス已上

二涅槃經文ニ二初正引 三十三北本<sup>四十一</sup>ノ文ナリ ツキ下トハ上ニ同シ 亦イハクト已ニ次上<sup>七</sup>ニ引キタル文ナリ

父ノ王喪シテノナニホ太子トイフアキラカニシリヌ王太子ノ異說ヲ以テ二經ノ前後チアラソフヘカラス 二成義

善見論ニ云頻婆娑羅王寒林城ニアリトキニ阿闍世太子上茅城ニアリ

テマツリコトヲナス政事ニヨリテ阿闍世王ト名ス 取意 三善見論  
ヨノ善見論トハ善見律ノコトナルヘシ然レトモ文處詳カナラス西  
域記九<sup>五十</sup>ニ此事出テタリ

ツキニ道理ノ難ヲ會セハ阿闍世法華ノ序分ニツラナルトイヘトモイ  
マタ正説ヲキカス其中間ニオイテ逆罪ヲ犯ス逆罪以後佛所ニイダラ  
ス涅槃ノ時節ニノソミテ耆婆カナシヘニシカヒテ佛所ニ詣スルコト  
アニ道理ニソムカンヤ 一會背道理難四 初立道理會 是ハ次  
上<sup>右</sup>シカルニ法華ハコレ正直捨方便ノ教ナリカクノコトキ深法ヲ  
キ、テ等ト道理ヲ以テ難シタルヲ今道理ヲ立テ、會シタマフ其意  
ハ阿闍世法華ノ列衆ニ加ハルトイヘトモ未タ正説ヲ聞カスシテ王  
宮ニ還ル後惡友ニ誘ハレ逆害ヲ犯シ而モ涅槃ノ時ニ至リ耆婆ノ勸  
メニヨリテ佛所ニ至リ滅罪得益スト云ニ何ソ道理ニ背クコトアラ

ンヤト云返破ナリ

タ、シ法華ノ同聞衆ニツラナリテノ逆罪ヲ犯スヘカラストイフ難  
ニイタリテハイマタ正説ヲキカス以前ニ逆罪ヲ犯ス所難ニアラス  
二會彼所難 文相知リ易シ

ナンナカ所説ノコトク法華以後ニ逆罪ヲツクル逆罪以後ニ法華ノ座  
ニツラナリテ正説ヲキ、テ逆罪滅セスシテ涅槃經ニイタリテ阿鼻ノ  
罪業ヲ滅シハシメテ得益セハ法華ニサラニ益ナシモシ此義ヲ存セハ  
即謗法ナリ法華ノ得益ヲ失スルカユハニ 三難彼所立 汝カ所立  
ノ如クナラハ滅罪ノ功ハ涅槃ニアリテ法華ニナシ是レ法華無益トス  
豈謗法ニ非ラスヤト反難タマフナリ

ナカンツク闍王ノ逆罪ハ觀經ノ發起序ナリ佛觀經ヲトクヘキ由序ノ  
タメニ阿闍世逆罪ヲツクル歟若シカラハタトヒ正説ヲキ、テ逆罪ヲ

犯ストイフトモ又コレ咎ナシ閻王涅槃經ニイタリテタナマナニ逆罪  
ヲ滅シテ無根ノ信ヲエタリアニ實業ノ凡夫ノ逆罪ニオナシカラシヤ  
四約權立義 是ハ阿闍世ヲ權化ノ仁トシテ會シタマフ阿闍世ノ  
興逆ハ觀經發起ノ由序ナリ若爾ヲハ設ヒ法華ノ正說ヲ聞キテ後逆  
罪ヲ犯ストモ權化ノ方便造罪ニシテ涅槃經ニ至リテ滅罪シテ無根  
ノ信ヲ得タリ實業ノ凡夫ノ造罪ニ同シカラシヤト會シタマフ是廣  
本ノ總序及ヒ和讚ノ所明ト同シト知ルヘシ

難シテイハク涅槃經ヲヒキテ觀經法華ノ同時ノ支證トスルコトハナハ  
タ此義タチカタシ涅槃經ハ一代四十餘年ノ經ヲ拈拾シテコレヲトク  
故ニ天台ニハ涅槃經ヲ名テ拈拾經トイフ 三會非當代難ニ 初問  
三 初就迦葉品文難ニ 初引拈拾經名難 立義釋籤一之一五十四以  
法華爲大收涅槃爲拈拾トアリ是レ涅槃經ハ拈拾經ナレハ佛一代

四十九年ノ說ニ巨ルヘシ故ニ今引クトコロノ涅槃ノ文ハ涅槃當時  
ノコトニハ非ス以前ノコトナルヘシト云難ナリ

ナカンツクヒクトコロノ迦葉菩薩品ノ文ハ涅槃ノ當代ニアラス如來  
畢竟シテ涅槃スヘキコトナアラハサンカダメニ提婆達多過去ノ因緣  
ニヨリテ佛所ニナヒテ不善ノ心ヲ生シ如來ヲ害セント欲シテ善見太  
子ト親友トナリナシヘテ父ヲコロサシムソノ次第ヲツフサニコレテ  
トクカルカユヘニ涅槃ノ當代ノ說ニアラス 一ニ示レ非涅槃當代ニヒ  
クトコロノ迦葉菩薩品ノ文トハ涅槃三十三四十一ノ文ナリ 提婆達多  
過去ノ因緣トハ報恩經四五惡友品ニ釋尊ト提婆ノ宿世ノ業緣ヲ說  
ケリ

ヒクトコロノ迦葉菩薩品ノツキ上ニイハク其時惡人提婆達多亦過去  
ノ業因緣ニヨリテ又ワカトコロニシテ不善ノ心ヲ生シワレテ害セ



ント欲ス即五通ヲ修スヒサシカラスシテ獲得ス善見太子トトモニ親  
 友トナリテ太子ノタメノユヘニ現シテ種々ノ神通ノ事ヲナス非門ヨ  
 リシカモイテ、門ヨリシカモイル門ヨリシカモイテ、非門ヨリシカ  
 モ入ルアルトキハ象馬牛羊男女ノ身ヲ示現ス善見太子見テハリテ即  
 愛心敬信ノ心ヲ生スコノ事ノタメノユヘニイツクシク種々ノ供養ノ  
 具ヲマウケテシカモコレヲ供養スマタマウシテマウサク大師聖人ワ  
 レイマ曼陀羅華ヲ見ントオモフトキニ調婆達多スナハナ三十三天ニ  
 往生シテカノ天人ニシタカヒテシカモコレヲ求索スソノ福ツクルカ  
 ュヘニスヘテアタフルモノナシステニハナチエスコノ思惟ヲナサク  
 曼陀羅樹ハ我々所ナシモシツカラトランニマサニナニノツミアル  
 ヘキヤ即前トラント欲スレハ即神通ヲウシナフカヘリテ己身ヲミル  
 ニ王舍城ニアリコ、ロニ慚愧ヲ生ス又ミルコトアタハス善見太子亦

ヲノ念ヲナサクワレイママサニ如來ノトコロニ往生シテ大衆ヲ求索  
 スヘシ佛モシ聽シタマハ、ワレマサニユ、ロニシタカヒテナシヘテ  
 スナハナ舍利弗等ニ詔勅セシムヘシトトキニ提婆達多即ワカトコロ  
 ニキタリテカクノコトキノ言ヲナサクマダチカハクハ如來コノ大衆  
 ナモテワレニ付屬シタマヘワレマサニ種々ニ說法教化シテソレナシ  
 テ調伏セシムヘシトワレイハク癡人舍利弗等ノ聰明多智ニシテ世ニ  
 信伏セラルワレナチ大衆ヲモテ付屬セスイハンヤナンチ癡人ニシテ  
 ツハキヲ食スルモノチヤトトキニ提婆達多又ワカトコロニシテマス  
 く惡心ヲ生シテカクノコトキノ言ヲナサク瞿曇ナンチイママタ大  
 乗ヲ調伏ストイヘトモ勢マダヒサシカラスシテマサニ磨滅ヲミルヘ  
 シ上カクノコトキノ文涅槃ノ當代ニアラス 三引同品次上文  
 三十三上ノ文ニテ信卷末上ニ引テアリ是ハ提婆種々ノ所作ヲ

ナシテ善見太子ヲ誘惑スルアリサマナリ文長シトイヘトモ知リ易  
シ此文ヲ引テ涅槃當代ニ非サルコトヲ難スルナリ

又ナンナカヒクトコロノ梵行品ニトクナンナキタレ耆婆ワレナンナ  
ト一象ニノラントオモフワレマサニ阿鼻地獄ニイルヘシコヒチカハ  
クハ投持シテワレナシテ墮セシメサレト法華ニ列座シテノナニノ  
失咎アリテカ阿鼻ニイラント怖畏シテ耆婆ト一象ニノラントモトメ  
ンカクノコトク法華以前ノ説トミユイカン 二引梵行品文難 次  
上右九所引ノ文ナリ

答迦葉菩薩品梵行品ノ文ノ始終ヲミルニ涅槃以前ノ説モアリ涅槃當  
代ノ説モアリヒトヘニ涅槃ノ當代ニアラスト云ヘカラス 一答三

初總示經文通二兩説 涅槃經ノ始終ヲ見ルニ一概ニ涅槃當代ノ説  
ニ非スト云ヘカラスト總シテ答ヘタマフ

ステニ阿難ニツケタマハク三月ヲスキナハリテワレマサニ涅槃スヘ  
シト善見キ、ナハリテ即ワカトコロニキタルタメニ法ヲトク重罪ウ  
スクナルコトヲエテ無根ノ信ヲウトイヘリコレ即法華ノナハリ涅槃  
ニイタル時節ナリ法華以前ニナヒテ過三月已當涅槃 トクヘカラス  
二別引涅槃當代文四 初過三月文 此文ハ次上右九ニ引キタル文  
ナリ是ハ明カニ佛入滅ヨリ三月前ニシテ遙カノ法華以前ノコトニ  
ハ非サルナリ

普賢經ニ云モロノ比丘ニツケタマハク三月ヲサリテノヤワレマ  
サニ涅槃經ノ文トマタクコレオナシ普賢經ハコレ法華ノ結經ナリ毗  
舍離國大林精舍重閣講堂ニナヒテニレナトク告阿難卻後三月已吾當  
涅槃ノ文法華以前ノ説トタレカコレナアラソハントツレヒニ普賢經  
文 普賢經ハ法華ノ結經ニシテ同經ノ初ニ出ル是レ涅槃ト同説ナリ

同經ノ梵行品ニイハク阿闍世王夫人トイツクシク車乘ニ駕シテ一萬二千妹壯ノ大象ソノカス五萬一々ノ象ノウヘニ三人ヲノス蓋華香伎樂種々ノ供具ヲ齎持シテ備足セストイフコトナシ導從ノ馬騎十八萬アリ摩迦陀國ノ所有ノ人民ツイテ王ニシタカフソノカス五十八萬ニ足滿セリソノトキ狗方那城ノ所有ノ大象十二由旬ニミナテコトクミナハルカニ阿闍世王眷屬トミナテタツテシカモキタル見ルソノトキ佛モロノ大衆ニツケテノタマハク一切衆生阿耨多羅三藐三菩提ノ近因トナルコトハ善友ニシクハナシナニテモテノユヘニ阿闍世王モシ耆婆ノ語ニ隨順セスハ來月七日必定シテ命終シテ阿鼻地獄ニオケテノユヘニ近因ハ善友ニシクハナシニ已上是 三來月七日文 同經ノ三字ナキヲ善シトス梵行品ハ北本涅槃二十一ノ文ナリ 次上八ニ略シマ引タマヘトモ今尙具サニ引キタマフ然レトモ正所用ハ來月七日必定命終ノ文ナリ是亦昔ノ事ヲ説クニ非ス涅槃ノ時ナルコト明カナリト證スル意ナリ

マタイハクソノトキ沙羅雙樹ノアヒタ佛所ニイタリテアフヒテ如來ノ三十二相八十種好ヲミタテマツルナラン微妙ノ身金色ノ山ノコトシカクノコトキノ經文アニ涅槃當代トトクニアラスヤ 四沙羅雙樹文 北本二十九ノ文ニテ闍王耆婆ノ勸ニヨリ佛所ニ至ル相ヲ説ケリ是涅槃當代ノ事實ナルコト明カナリ カクノコトキノ經文トハ普賢觀經及ヒ涅槃經ナリ

オホヨソ觀經法華同時ノ支證ヲタツヌルニ阿闍世法華ノ同聞衆ニツラナルコトコレ第一ノ支證ナリユヘイカントナレハ涅槃經ニアルヒハ來月七日必定命終墮阿鼻獄トトキアルヒハワレマサニ阿鼻地獄ニイルヘクトモコヒチカハクハナンナ投持シテワレナシテ墮セシメサ

レトトキアルヒハ善見王ノマウサク如來ハ清淨ニシテ穢濁アルコト  
ナシワレヲ罪人イカンカミルコトヲエントトクカクノコトキノ文ヲ  
モテ闍王ノ逆罪ヲカンカフルニ若法華以前ナラハ列座ノノナニイツ  
レノ失咎アリテカ涅槃經ニ必定命終入阿鼻獄トトカンマタ法華ノ列  
座ノノナ如來清淨無有穢濁我等罪人云何得見トハイフヘカラスアキ  
ヲカニシリヌ闍王ノ逆罪法華ノ序分以後トミエタリ 二三正舉同時  
文證三 初明造逆在序品後 二經同時ノ證據ハ闍王法華ノ同聞  
衆ニ列ナルコト是ナリ若シ法華以前ノ逆罪ナラハ法華ノ會座ニ列  
スル時ニ臨ミ懺悔スヘシ然ルニ涅槃ノ時佛所ニ至リテ懺悔スルヨ  
リ見レハ法華ノ同聞衆ニ列スルヨリ以後ノ造逆ナルコト明カナリ  
此下ニ引ケル諸文ハ皆前來シハク引キタル文ナリ  
オホヨソ闍王ノ懺悔滅罪得益コトククシミナ涅槃經ニイタリテコレ

ヲトクカルカユヘニシリヌ闍王法華ノ序分同聞衆ニツラナルトイヘ  
トモイマタ正説ヲキカス正説ヲキカサルサキ調達惡友ノナシヘニ隨  
順シテ逆罪ヲ犯ス以後佛所ニ詣セス涅槃ノ時分ニイタリテ耆婆カナ  
シヘニシタカヒテ拘尸那城沙羅雙樹ニイタルソノトキニナヒテ逆罪  
ヲ滅ス得益ヲカウフリ一切衆生ニ阿耨多羅三藐三菩提心ヲオコサシ  
ム二明闍王涅槃時得益一 初述義 次上<sub>右</sub>ニ 二述ルトコロト大ニ  
同シ

同經ノ二十ニ曰クソノトキ阿闍世王者婆ニカタリテノタマハクワレ  
イマタ死セサルニステニ天身ヲエタリ短命ヲステ、シカモ長命ヲエ  
無常身ヲステ、シカモ常身ヲエモロクノ衆生ヲシテ阿耨多羅三藐  
三菩提心ヲオコサシム即コレ天身長命常身コレ一切ノ諸佛ノ弟子已  
上 二引文 北本二十<sub>六</sub>ノ文ナリ 天身長命常身ヲエタリトハ所聞

ノ涅槃ノ妙理ノ利益ヲ明ス如來常住無有變易ナルカ故ナリ

法華玄義ノ五ニイハク成道已來四十餘年未顯眞實法華ニハシメテ

眞實チアラハス相傳シテイハク佛年七十二法華經ヲトク<sup>巳上</sup>善見論

ニイハク阿闍世王法位ニノホリテ八年佛涅槃ストコレ涅槃經觀經等

ノ三經ノ說符合セリヨク心ヲトメコレ見ルヘシ<sup>ニ</sup>二三示法華

八軸說時<sup>一</sup>法華玄義ノ五トハ五之一<sup>六五</sup>ノ文ナリ相傳シテイ

ハクトハ菩提流支相傳ノ說ナリ釋籤ニ玄義ノ文ヲ釋シテ準菩提

流支法界性論云佛成道四十二年說法華經論非佛說故云相傳ト

アリ善見論ハ善見毘婆沙律<sup>二</sup>ノ文ナリ三經トハ涅槃經ト觀

經ト無量義經ナリ

難シテ云ク過三月已吾當涅槃ノ文ニヨリテ觀經ヲ法華同時ノ說トイ

ハ觀經ノ說時法華八卷ノスエニアタルモシコノ義ヲ存セハ法華五

提婆品ニイハク諸ノ四衆ニツケタマハク提婆達多サリテノク無量劫

ナスキテマサニ成佛チウヘシ號シテ天王如來トイハン<sup>乃</sup>世界チハ天

道ト名ケン<sup>巳上</sup>提婆カ記別ハ入滅シテノク阿鼻ニコレチオクルモシ

法華ノスエニイタリテ阿闍世逆罪チオカセハ隨順調達トハトクヘカ

ラスイカン 四會提婆品文<sup>二</sup> 初難 是ハ次上<sup>左七</sup>ニ過三月已ノ文

ヲ引テ法華觀經同時ナルコトチ成シテアリ其レニ對シテ今ノ難チ

立ルナリ若其義ノ如クナラハ觀經ハ法華八年ノ末ニ當ル然ル時ハ

疑ヒアリ法華提婆品科註<sup>五</sup>提婆ハ天王如來ノ記別チ授ケラレタ

リ而シテ其提婆ハ阿鼻地獄ニアリ然ルチ法華ノ終ニ至リテ阿闍世

ニ逆罪チ勸ムルト云コトハ道理ニ當ラサルコトナリト云難勢ナリ

此提婆カ記別ハ入滅シテノク阿鼻ニコレチオクルト云コトハ菩薩

瓔珞經十四<sup>左二</sup>是時目連復白佛言或有衆生受地獄形以佛神力

往授其決如我昔日爲佛所遺授提婆達兜決トアリ證真文句私記  
七<sub>七</sub>ニ引テアリ

答コノ義アニサキニイハスヤ觀經ヲトクコト法華ノ序分ノスエニア  
タレリ卻後三月我當涅槃ノ文ハ法華ヲトキテハリテ法華ノ結經普賢  
經ノ說ナリ涅槃經ノ說マダコレニオナシ逆罪以後闍王佛所ニ詣セス  
如來闍王ヲス、メテ佛所ニ詣センカタメニ阿難ニツケテ過三月已當  
涅槃トイフモシシカラハ觀經ト涅槃經トノ中間八ケ年ナリ善見論ニ  
イハク阿闍世王クラ井ニノホリテ八ケ年ニ佛入滅スト則チコノ義ナ  
リ故ニシリヌ提婆カ五卷ノ記別マタク相違ニアラス云 二答 サキ  
ニイハスヤトハ次上<sub>左九</sub>及<sub>右十</sub>ナリ答ノ意ハ闍王ノ興逆ハ法華序分  
ト正宗分ノ間ニ當レリ卻後三月ハ法華ノ末ノコトナリ故ニ提婆法  
華ノ正宗分提婆品ニテ記別ヲ授カルトモ差支ナシト云意ナリ善見

論ハ次上<sub>三</sub>右<sub>二</sub>ニ引テアリ

タツチテイハク觀經若シ法華同時ノ說ナラハナンカユヘソ淨土ノ祖  
師法然上人觀經ヲモテ爾前ノ教ニ攝スルヤ選擇集ニイハク問テ云爾  
前ノ經ノナカニナンソ法華ヲ攝スルヤトカクノコトキノ現文ヲ見ナ  
カラ末學アニ法華同時ノ說トイハンイカン 五會觀經爾前<sub>二</sub>一 初  
問 選擇集ニイハクトハ末<sub>左十</sub>ニノ文ナリ此難ハ觀經法華同時ノ說  
ト云ハ、法然上人ノ觀經ヲ以テ爾前ノ教ニ攝スルニ背クニ非スヤ  
ト云意ナリ選擇集文ニ爾前ノ教ノ中トハ爾前ノ教タル觀經ノ中ニ  
ト云意ナリ

答天台ノコ、ロハ淨土ノ教ヲ方等部ニ攝シテ爾前ノ教トナツクコノ  
義ヲモテノユヘニシハラク他ニシタカヒテ問チナシテ答ノ中ニ自義  
ヲダ、テ答テ云クイマイフトコロノ攝トイフハ權實偏圓等ノ義ヲ論

スルニアラス讀誦大乘ノ言アマチク前後大乘ノ諸經ニ通ス前トイフハ觀經以前ノ諸大乘經是ナリ後トイフハ王宮已後ノ諸大乘經コレナリ已上ステニ觀經已前ノ諸大乘經トイフナンソ觀經ヲ爾前ノ教ニ攝スルトイフヤ 一答二 初引選擇集成 天台ノコ、ロ淨土ノ教ヲ方等部ニ攝シテ爾前ノ經トナツクトハ天台觀經疏上三ニ出ル天台ニ於テ觀經ヲ判スルニ二意アリ若シ通ノ五時ニ依レハ法華同時亦ハ法華ノ後ニ通スルコトモアルヘシ若シ別ノ五時ニ依レハ第三時ノ方等部ニ攝スス義十之二三別論是第三時通論亦至於後乃故知方等至法華後トアリ 今問ノ文ハ此天台ノ宗義ニ就テ問ヲ立ル是レ隨他ノ問ナリ 答ノ中ニ自義ヲタテ、答テ云クトハ選擇集ノ中ノ答ノ文ニ黑谷自義ヲ立テタマフナリ此答ノ意ハ攝ト云ハ權實偏圓等ノ義ヲ論スルニ非ス觀經ノ讀誦大乘ノ言ノ中ニ觀經前後

ノ諸大乘經ヲ攝スト云意ナリ ステニ觀經已前ノ諸大乘經トイフナンソ觀經ヲ爾前ノ教ニ攝スルトイフヘキヤトハ觀經已前ト簡別ノ言アルヨリ見レハ觀經ヲ爾前ノ教ニ攝セサルコト明カナリト云意ナリ

弘決ニイハクアマチク法華已前ノ諸經ヲタツヌルニマコトニ二乗作佛ノ文ヲヨヒ如來久成ノ說ヲアカスコトナシ故ニシリヌナラヒニ方便ヲ帶スルニヨルカユヘニトナリ已上二乗作佛ト如來久成ノムチ法華ニイタリテコレヲトク故ニシリヌ已前トイフハ法華ノホカナリ法華已前觀經已前マタクコ、ロコレオナシアヤシムニタラス 一引弘決釋例 弘決ハ止觀輔行ノコトニテ荆溪ノ作六之二ハノ文ナリ二乗作佛ハ二乗ニ成佛ノ記別ヲ授クルコト如來久成トハ釋尊五百塵點劫ノ久遠ノ昔ノ成佛ト云コト此二乗作佛ハ迹門十四品ノ結

歸スルトコロ如來久成ハ本門十四品ノ結歸スルトコロ法華八軸二  
十八品ハ此ニテ説クヨリ外ナシ此弘決ヲ引ク意ハ已前ノ言ノ例ヲ  
舉ル爲ナリ若シ法華ヲ本體トスレハ已前ト云ハ法華ノ外ナリ若シ  
觀經ヲ本體トスレハ已前ト云ハ觀經ノ外ナリ法華已前觀經已前ノ  
言ヨリ見レハ二經同時ナルコト明カナリ

尋テ曰ク觀經若シ法華同時ノ説ナラハ天台アヤマテリナンソ爾前ノ  
教ニ攝スルヤ 二通難二 初問 次上<sup>四</sup> 天台ノコ、ロ淨土ノ教ヲ  
方等部ニ攝シテトアルヲ承テ發問セリ

答大師ノコ、ロモテサラニハカリカタシ若シコ、ロミニコレヲ會セ  
ハ法華ハコレ八ヶ年ノ説觀經ハワツカニ一日ノ説ナリシカモ法華ノ  
序分ノチハリニアダリテコレヲトクトキ短速ナルユヘニ方等部ニ屬  
シテ爾前ノ教ヘニ攝スルカ 一答 此意ハ法華ハ長キ八年ノ説觀經

ハ僅カ一日ノ説ナリ故ニ天台ニハ淨土教ヲ概判シテ方等部ニ攝ス  
ルカ故ニ今觀經ハ短時ナルヲ以テ多分ニ從ヘテ方等部ニ屬シテ爾  
前ノ教ニ攝スル歟ト答フ然ルニ是ハ天台ノ釋ニ約スル隨他意方便  
ノ答ナリ又決智鈔本<sup>三</sup>隨自意眞實ノ義アリ五時ヲタツルコトハ  
天台一家ノ教相ナリ餘宗コレヲマモラス等ト我宗ニハ五時ノ判ヲ  
用ヒス難易ニ道聖淨土門ノ判ヲ用ヒル趣キヲ嚴シク明シテアリ  
問モシナンチカ所説ノコトクンハ淨土ノ教ヲモテ出世ノ本懷トスヘ  
キヤ 答シカナリ 四出世本懷問答二 初畧明 此問ノ起ル由來ハ  
上卷<sup>左</sup>法華ハコレ三世ノ諸佛ノ出世ノ本懷一切衆生ノ成佛ノ直  
道ナリ等ト難ス此難ヲ答フル<sup>三</sup>元<sup>左</sup>釋ニハ兩尊出世ノ本意四  
輩入道ノ要門<sup>乃</sup>コレ佛ノ本懷ナリ輕爾スヘカラストアル文ヲ承テ  
ナンチカ所説ト指シテ難スルナリ 答シカナリトハ斟酌ナク淨土



教出世本懷ナリト答ヘタマヘリ此出世本懷ノコトハ六要一十二二  
義ヲ以テ明シタマヒ決智鈔末<sup>紙三</sup>問答アリテ諸文ヲ引ケリ彼ノ略述  
ニ就テ見ルヘシ

難シテイハク出世ノ本懷カキリテ法華ニアリ經ニ云ク一大事ノ因縁  
ノユヘニ世ニ出現ス<sup>紙上</sup>淨土ノ三經ノ事ニカクノコトキノ文ナシナ  
ンソタ、イマニ出世ノ本懷トイフヘキヤカクノコトキノ義ハナハタ  
モテ依用シカダシイカン 二廣明二 初證文有無問答二 初問 文  
ノ如シ

答大悲ノ本懷元ヨリ重苦ノ衆生ヲサキトス涅槃經ノ七種ノ衆生コ、  
ロコレニオナシ 一答二 初總引涅槃經 北本三十五<sup>ナ</sup>南本三十  
二ニ<sup>ナ</sup>ニ出ル六要九<sup>ナ</sup>南本ノ文ヲ引ク北本ニハ恒河中有七衆生  
一者没二者暫出還没等トアリ南本ニハ第一人者入水即沈第二人

者雖没還出出已復没等トアリ第一ハ闡提第二ハ造惡ノ人ナリ此  
二人ハ自ラ散善義ノ常没常流轉ノ釋ニ合スルナリ是レ本願ノ正機  
ナリ立義分<sup>紙十</sup>諸佛大悲於苦者心偏愍念常没衆生トアリ  
シカノミナラス淨土ノ教ヲ出世ノ本懷トイフ其文ヒトツニアラス  
二別引諸文三 初總標

阿彌陀經ニイハク舍利弗マサニシルヘシワレ五濁惡世ニナヒテコノ  
難事ヲ行シテ阿耨多羅三藐三菩提ヲエテ一切世間ノタメニコノ難信  
ノ法ヲトクコレヲ甚難トス<sup>紙上</sup> 二別引七 初阿彌陀經文 此文ハ  
決智鈔末<sup>紙四</sup>ニ引テアリ

法事讚ニコノ文ヲ釋シテイハク如來五濁ニ出現シテ隨宜ニ方便シテ  
群萌ヲ化スアルヒハ多聞ヲトキテシカモ得度セシメアルヒハ小解ヲ  
トキテ三明ヲ證セシメアルヒハ福慧ナラヘテサハリチノソクトナシ

へ或ハ禪念シテ坐シテ思量セヨトナシフ種々ノ法門ミナ解脱スレトモ念佛シテ西方ニユクニスキタルハナシ已上コノ經釋アニ出世ノ本懷トイフニアラスヤ 二法事讚文 下九ノ文ナリ是ハ此書上卷六ニ引キタル文ナリ經釋トハ阿彌陀經ト法事讚ヲ指ス何レモ出世本懷ヲ顯ス文ナリ

コ、ナモテ元曉阿彌陀經ヲ釋シテ云ク兩尊出世ノ本意四輩入道ノ要門耳ニ經名ヲキ、テ即一乘ニイリテシカモ退スルコトナシクナニ佛號ヲ稱シテスナハナ三界ヲイテ、シカモカヘラス已上 三元曉釋文 此文ハ此書上二ニ引キテアリ

慧心ノ略記ニイハク然ルニ信受ナス、ムルハ願生ヲ成センカタメナリコレ佛ノ本懷ナリ輕爾スヘカラス已上 四慧心釋文彌陀經略記十三右ハノ文ナリ

稱讚淨土經ニイハクマタ舍利子ワレカクノユトキノ利益ヲ觀スルニ安樂大事ノ因縁ナリ誠諦ノ語ヲトクナリ已上 五稱讚經 此稱讚淨土經ハ阿彌陀經ノ異譯ナリ 安樂大事因縁ノ言ハ一大事因縁ノ言ニ相似タリ

秘密四藏經ニイハク諸佛ノ出世ノ本懷ハ阿彌陀佛ノ功德名號ナリト已上 六秘密經文 此經藏中ニナシ慕歸繪詞一紙四ニ秘密神咒經ト題シテ引ケルハ此文ト大ニ同シ

無量壽經ノ下卷ニイハク無量壽佛ヲ念シテ其クニ生セント願シテモシ深法ヲキ、テ歡喜信樂シテ疑惑ヲ生セスカ一念カノ佛ヲ念シテ至誠心ヲモテソノクニ、生セント願ス已上 七無量壽經文 下卷三輩ノ中ノ下輩ノ文ナリ

コレヲノ經釋ヲ出世ノ本懷ト云フ文分明ナリタレカコレヲウタカハ

三總結

難シテイハク法華ヲ出世ノ本懷トイフカコトキハムカシ一代ノ教ヲ方便トスイハク鹿園ノ誘引方等ノ褒貶般若ノ洩汰種々ノ利益アリトイヘトモミナコレ一佛乘ノ方便タリカルカユヘニ一代最頂カキリテ法華ニアリコノユヘニ出世ノ本懷トスルニ足リヌシカルニ淨土ノ經ハ薄福一機ノタメニコノ教ヲトクナンソ出世ノ本懷ニ屬センヤ所引ノ阿彌陀經ハマタコレタ、一機ノタメニコレヲトク念佛ヲス、ムルハカリナリモシシカラハ出世ノ本懷トイフヘカラスイカン 二本懷淺深問答二 初問 此問ハ法華ト念佛ヲ説ク經ヲ比較シテ法華ニハ方便ヨリ眞實ニ入ル相アリ故ニ出世本懷ト云ヘシ淨土教ニハ此義ナシ故ニ出世本懷ト云ヘカラスト難スル意ナリ ムカシ一代ノ教ヲ方便トストハ爾前ノ教ヲ法華一乘ノ方便トスルコトナリ其方便ノ相ヲ述ヘテ鹿苑ノ誘引等ト云フ是ハ五時ノ中前四時ハ方便ナルコトヲ示ス之ヲ擬宜誘引彈訶淘汰ト云フ擬宜トハ華嚴ノ時ハ直ナニ華嚴大教ヲ説テ小機ニ擬シテ受ルヤ否ヤヲ考ヘ見タマフコトナリ鹿苑ノ誘引トハ華嚴大教ヲ受クヘキ機縁ナキカ故ニ鹿苑ニ遊ンテ二乗ヲ誘引センカ爲ニ阿含等ノ小乘法ヲ説キタマフコトナリ方等ノ褒貶トハ方等ノ時ニアリテハ藏通別圓ノ四教ヲ俱説シテ藏教ノ小執ヲ折挫シテ後三大乗ヲ稱歎スルヲ大小相對ノ彈訶ト云ヒ藏通別ノ偏教ヲ彈斥シテ圓教ノ德ヲ褒美スルヲ偏圓相對ノ彈訶トイフ般若ノ淘汰トハ般若ノ時ニアリテハ一切法界摩訶衍ナリト大小ノ法門ヲ融通スル人ハ大小不同ナレトモ法ハ大小無別ト説ク之ヲ喻ニ就テ淘汰ト云フ淘汰トハ物ノ穢レヲ洗ヒ流スコトニテ般若空慧ノ水ヲ以テ大小ノ法門隔別セリト思ヒ込ミタル執情ヲ洗ヒ流

便ノ相ヲ述ヘテ鹿苑ノ誘引等ト云フ是ハ五時ノ中前四時ハ方便ナルコトヲ示ス之ヲ擬宜誘引彈訶淘汰ト云フ擬宜トハ華嚴ノ時ハ直ナニ華嚴大教ヲ説テ小機ニ擬シテ受ルヤ否ヤヲ考ヘ見タマフコトナリ鹿苑ノ誘引トハ華嚴大教ヲ受クヘキ機縁ナキカ故ニ鹿苑ニ遊ンテ二乗ヲ誘引センカ爲ニ阿含等ノ小乘法ヲ説キタマフコトナリ方等ノ褒貶トハ方等ノ時ニアリテハ藏通別圓ノ四教ヲ俱説シテ藏教ノ小執ヲ折挫シテ後三大乗ヲ稱歎スルヲ大小相對ノ彈訶ト云ヒ藏通別ノ偏教ヲ彈斥シテ圓教ノ德ヲ褒美スルヲ偏圓相對ノ彈訶トイフ般若ノ淘汰トハ般若ノ時ニアリテハ一切法界摩訶衍ナリト大小ノ法門ヲ融通スル人ハ大小不同ナレトモ法ハ大小無別ト説ク之ヲ喻ニ就テ淘汰ト云フ淘汰トハ物ノ穢レヲ洗ヒ流スコトニテ般若空慧ノ水ヲ以テ大小ノ法門隔別セリト思ヒ込ミタル執情ヲ洗ヒ流

スコトナリ此前三時ノ中方便ノ言ノ中ニ最初ノ華嚴ヲ除クハ華嚴ノ圓教ニハ別教ヲ兼ルトイヘトモ法華ノ圓ト圓ノ義同シキニ約シテ除クト見ユル昔圓今圓體無殊トイヘル是ナリ是クノ如ク漸次ニ方便シテ一佛乘ノ眞實ニ入ラ令ルカ法華ナリ故ニ出世本懷トスヘシシカルニ淨土ノ教ハ薄福一機ノタメニ等トハ淨土教ハ總シテ薄福下機ノ爲メ所引ノ彌陀經ハ五濁惡世ノ一機ノ爲ニシテ漸入眞實ノ義ナケレハ出世本懷トハ云ヘカラスト云難ナリ

答文トイヒ道理トイヒステニマヘノ答ノコトシ 一答三 初指前文理 マヘノ答トハ次上<sup>六</sup>以下ヲ指ス

ナカンツク釋尊ノ悅豫微咲コレスナハキ本意ヲトクル相チアラハストナリシカノミナラス十方恒沙ノ諸佛ノ護念證誠アニ大事ノ因縁ニアラスマヤ 一舉諸說三 初舉三經悲懷說 悅豫トハ大經ノ出世本

ノ文ニシテ序分ニ出ル委シクハ教卷ノ如シ 微咲トハ觀經ノ出世本懷ノ文ニシテ序分ニ出ル顯說ハ散善顯行縁ノ文ナレトモ隱彰ノ實義ニ約セハ逆惡攝取ノ本願ヲ顯ス時至ルカ故ニ微咲ンタマフナリ化卷御自釋<sup>三四</sup> 緣達多闍世惡逆彰釋迦微咲素懷トアリシカノミナラス十方恒沙ノ諸佛等トハ阿彌陀經ノ出世本懷ノ文ニシテ化卷御自釋<sup>九四</sup> 如來所以興出於世恒沙諸佛證護正意唯在斯也トアリ

オホヨソ諸佛ノ出世モハラ重苦ノ衆生ヲサキトスカルカユヘニシリ又出世ノ本懷モハラ淨土ノ教ニアリ 一舉救苦爲本說二 初標意 此義次上<sup>六</sup>左<sup>十</sup>ニ引ク涅槃經ノ文ノ如シ 華嚴ノ文殊讚佛ノ偈ニイハク一々ノ地獄中ニ無量劫ヲヘタリ衆生ヲ度センカタメノユヘニシカモヨクユノ苦チシノフ<sup>巳上</sup> 二出文六

初華嚴經文 新華嚴十三<sub>紙三</sub>ノ文ナリ舊華嚴五十<sub>紙十</sub>同意ノ文アリ以下ノ三文ハ要集中本<sub>三十三</sub>ニ引テアリ

涅槃經ニイハク一切衆生ノ異ノ苦ヲウクルハコトククコレ如來一人ノ苦ナリ<sub>已上</sub> 二涅槃經文 北本三十八<sub>紙三</sub>ノ文ナリ 異ノ苦ヲウクルトハ各自所造ノ業ニ隨フテ別異ノ苦ヲ受ルコトナリ

莊嚴論ニ云ク菩薩ノ衆生ヲ念シテコレヲ愛スルコト骨髓ニトホリ恒時ニ利益セント欲スルコトヲホシ一子ノコトシノユヘニ<sub>已上</sub> 三莊嚴論文 無着ノ大乘莊嚴經論六<sub>紙十</sub>ノ文ナリ

コノ義ヲモテノユヘニハシメニ無量壽經ニハイマタ五逆ヲツクラサル機ニオイテハ抑止シテ唯除五逆トトキノケノ觀經ニイタリテハステニ五逆ヲツクル機ニオイテ攝取シテ往生ヲユルスコレ即娑婆ノ教主釋尊種々ノ方便ヲモテ造惡ノ衆生ヲシテ利益セシムルコトカクノ

コトシ 四大觀二經文 是ハ大觀二經ノ文ヲ會合シテ抑止攝取ノ義ヲ明シタマフ論註及ヒ立義分ニ釋アリ此義ハ口傳鈔下<sub>九十一</sub>ニテ辯シタルカ如シ

淨土ノ教主彌陀如來ハ毘舍離國ニイタリテヒカリヲノヘテタケマケニ重病ノ衆生ヲダスケテコトクク安穩ナラシム 五請觀音經文此文顯名鈔<sub>左十一</sub>ニ持名鈔<sub>左四</sub>ニ引キテアリ其本ト安樂集下<sub>九十一</sub>ニ引用セリ 王宮ニヲヒテ空中ニ往立ス韋提スナハナ無生ヲウマコトニシリヌニ尊出世ノ大意モトモ淨土ノ教ヲサキトス 六華座觀文 此文ハ顯名鈔<sub>左十一</sub>ニ引キテアリ

華嚴經ニイハク自在力ヲ顯現スルコト圓滿修多羅ヲトカンカタンナリ カノ宗ノヒトコノ文ハカリヲモテ出世ノ本懷ト號ス 三舉顯出世意文 初華嚴經文 舊經五十六<sub>紙十</sub>顯現自在力演說圓

滿經ト同七演說圓滿因緣修多羅トアリ合シテ之ヲ引キタマフ  
 圓滿修多羅トハ十々無盡ノ法ヲ説ク華嚴經ノコトナリ此文ヲ引ク  
 ハ出世本懷ノ例ヲ示ス彼ノ華嚴宗ニハ圓滿修多羅ノ一文ハカリテ  
 以テ出世本懷ヲ談スルト云コトナリ華嚴ノ出世本懷ノコトハ探玄  
 記一紙ニ委シク明シテアリ

イハンヤ淨土ノ教ニテヒテ出世ノ本懷トイフ秘密四藏經ノ文分明ナ  
 リ二四藏經文 此經ノ文ハ次上ハニニ出テタリ

稱讚淨土經ハ利益安樂大事因緣トトケリカノ經ト阿彌陀經トハ同本  
 異譯ノ經ナリタレカコレヲアラソハン三稱讚經文 此經文次上ハニ  
 ハニ具サニ引テアリ

出世ノ本懷ニテヒテ經々ノ異說所望不同ナリ二正判ニ淺深 初  
 總標 出世本懷ノ說所望不同ノ趣キ次下ノ如シ

華嚴經ノコトキンハ厚殖善根ノ上機ヲ化シテ本懷トス法華ニテヒテ  
 ハニ乗ヲ化スルヲ本懷トス淨土ノ教ニイタリテハ重苦ヲスクフヲ本  
 懷トス涅槃經ノ七種ノ衆生コ、ロヲト、メテコレヲシルヘシ二別  
 明 當段ニ於テ華嚴ト法華ト淨土トノ三教ヲ出シテ正シク出世本  
 懷ノ淺深ヲ判シタマフ華嚴經ハ厚殖善根ノ大機ヲ攝スルヲ以テ本  
 懷トシテ二乗ヲ攝スルコト能ハス其力ヲ弱シ次ニ法華經ハ根敗壞  
 種ノ二乗ニ成佛ノ記別ヲ授クルコトハ華嚴ニ勝レリトイヘトモ逆  
 謗闡提鈍根無智ノ人ヲ救フコト能ハス獨リ淨土ノ法門ハ五乘齊入  
 ニシテ殊ニ重苦ノ衆生ヲ本トシテ救ヒタマフ豈同日ノ談ナランヤ  
 涅槃經ノ七種ノ衆生ノコトハ次上ハニ出ニテタルカ如シカ、  
 ル諸教超過ノ出世本懷ノ念佛ヲ以テ虛妄ノ法ナリ無間ノ業ナリト  
 難スルハ許スヘカラサル惡見ナリ慎シマサルヘカラス

# 法華問答下終

上來略シテ此法華問答ヲ講シ了レリ

# 法華問答略述終

明治四十二年八月十五日印刷  
同 年同月廿五日發行

著 者 吉 谷 覺 壽



京都市下京區上珠敷屋町東洞院西入橋町八番月

發行兼 印刷者 西村九郎右衛門

文學博士 南條文雄師序文 編經九師序文  
木全義順師冠註

冠註 淨土三部妙典  
分科  
\*\*\*\*\*

正價金壹圓八拾錢 郵税金拾貳錢

銅版和紙  
●大經二冊 金壹圓  
●觀經一冊 金五拾錢  
●小經一冊 金參拾錢

淨土三部經の講說世に鮮なしと云ふ可からずされど其多くは浩漭なる大部の講録にして冗長の嫌なきのみならず是を通覽讀過して輒く精要を摘む事難し此れ識者の夙に憾みとする處也弊館茲に鑑み師に請ふて本書を刊行す茲に本書が特に卓出せる要點を歴指して是を江湖に紹介せむ

- (一) 義骨の論題を設け解説を容易ならしめたる事
- (二) 本經と冠註との對照には最も努めたる事
- (三) 冠註を和文となしたる事
- (四) 諸家の異説を擧げて以て歴觀對照に便したる事

木全義順師述 ●冠註式歎徳文 全一冊 正價金貳拾錢 郵税貳錢

一乘院吉谷覺壽講師撰

# 淨土三部妙典講述

全七冊 正價金壹圓七拾錢 郵税金拾貳錢

●大經講述 三冊 金七拾五錢 郵稅八錢

●觀經講述 二冊 金六拾錢 同六錢

●小經講述 二冊 金四拾錢 同六錢

本書は吉谷講師が獨得の簡明暢達の辭を以て其蘊奥を叩て説述せられたるもの努めて煩瑣なる文句釋を避けられたれば青年學徒の研究用書としては極はめて適當なる好書なり

細川千崙師講述

# 阿彌陀經商量記

全一冊 正價金五拾錢 郵税金六錢

阿彌陀經は大聖釋尊廣く阿彌陀の名義を説示し給へる一宗至要の妙經なり故細川講師審さに幽玄を説破せられたるもの本書也

細川千崙師講述

# 觀經隱顯決擇記 全一冊

正價金拾錢 郵稅貳錢

香月院深勵師述 細川千崙師校閱

# 三帖和讚講義

薄葉摺全二十四冊 合本十二冊

●淨土和讚之部 實價金五圓 郵稅拾貳錢

●高僧和讚之部 實價金五圓 郵稅拾貳錢

●正像末和讚之部 實價金五圓 郵稅拾貳錢

三帖の御和讚は宗祖大師の知恩報徳の爲に御選述ありと雖も其深義遠にして其文字平易簡明なりとは難し是を以て古來此御和讚を末註講義せるもの汗牛充棟も當ならざれば或は簡略にして幽意を盡さず或は通俗にして師の博學宏識を以て此寶典を解釋し其義の精要を採擇し其意の極致を解説し始んとす上必ず携ふべきの良書也

淨土、高僧、正像末和讚各前掲の價格にて別賣す

明教院僧叙師著

# 三帖和讚方軌會本

小本帙入 薄葉全三冊 正價壹圓五拾錢 郵稅八錢

西川諦亮師述

# 親鸞聖人御一代記法話

全壹冊

斬新なる法話 適切なる事實

正價金廿五錢 郵税金四錢

從來御傳鈔説教其他聖人の御傳記遺事等の著述枚舉に遑まらざる然れども或は陳腐或は高尚に過ぎ甚だその牽強附會の説を網羅し憚りなく著述せらるもの多し西川諦亮師之を憂怖し信念の餘り専心一意之ヲ考窮し丁寧筆を下たせり其の誰れも一とく易く當時は適切又解し易きものあり假名まてもつたり今日此報恩講を幸ひて祖恩の一端を報せんと為に出版するものあり

報恩講參詣の諸氏に一本を購ひ帰れば良き土産とならんし又教導せらるる師の好材料とせらるること多ければ参考書として必ず一本を備へ給へば本館の幸ひのみならず

京都市下珠敷屋町東海院西入町

發行所

西村護法館



